

学習の手引き

(5回生・6回生用)



高度専門看護学科

【科目】	【時期】	【担当講師】	実務経験
ライフサイクル論1 (総論・胎児・小児)	1年次 前期	長尾 綾子 専任教員	14年
	【単位 時間数】	山下 幸代 専任教員	21年
	1単位 30時間	金子 裕子 専任教員	20年

【概要】

人間を身体・心理・社会的側面の統合体であり、発達し続ける存在であるという観点から理解する。人のライフサイクルと発達について学び、それぞれのライフサイクルにおける生活のあり方や健康課題の特徴を学び、看護の対象となる人々を理解するための基礎的な能力を養う。

【到達目標】

1. 人間は生涯発達し続け、様々な側面を持つ統合体であることを理解できる。(知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)
2. 発達に影響を及ぼす因子について理解できる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
3. 発達理論の特徴について理解できる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
4. 受胎と胎児期・乳幼児期・学童期・思春期の発達の特徴と健康課題について理解できる。(知識・理解)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	人間発達と理論 長尾	1. 人間発達と理論 1) 人間と発達 2) ライフサイクル 3) 人間の基本的欲求 4) 各発達理論の特徴 ・フロイト ・エリクソン ・ピアジェ ・ポウルビィ ・レビンソン ・ハヴィガースト		
2				
3				
4	受胎から子どもの誕生 山下	1. 受精から着床までの経過 2. 胎児期の形態的・機能的・心理的発達 3. 胎児の発達に必要な支援	1) 受胎と胎児期の心と身体 ①形態・機能的側面の発達 ・妊娠の成立 ・胎生各期における胎児の形態・機能 ②心理的側面の発達 ・意識の芽生えと自我の形成 ③胎児の発達に関わる問題と発達に影響を及ぼす因子 ・体内因子 ・胎児の本質的異常 ④発達に必要な支援 ・母親の健康状態の確認と胎児の順調な発育の確認	長尾 20%
5				
6	新生児期の特徴 乳幼児期の発達 山下	1. 新生児・乳幼児期の身体的・心理・社会的側面の発達の特徴と問題	1) 新生児期・乳幼児期の心と身体 ①形態・機能的側面の発達 ②心理・社会的側面の発達 ③発達に関わる健康上の問題 ・不慮の事故 ・突然死症候群 2) 養育の発達 ①分離不安 3) 小児とともに発達する家族	金子 20%
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13	学童期・思春期の発達の特徴 金子	1. 学童期の身体的・心理的・社会的側面の発達の特徴と問題 2. 思春期の身体的・心理的・社会的側面の発達の特徴と問題	1) 学童期の心と身体 ①形態・機能的側面の発達 ②心理・社会的側面の発達 ③発達に関わる健康上の問題 ・生活習慣病の予防 ・過密なスケジュールと疲労 ・保護者との関係 2) 思春期の心と身体 ①形態・機能的側面の発達 ・第二次性徴の出現 ②心理・社会的側面の発達 ・認知と自我 ③発達に関わる健康上の問題 ・生活行動に関連する問題	
14				
15				

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

関連科目
心理学 教育学 ウィメンズヘルス概論
小児の健康と看護 高齢者の健康と制度

【テキスト】

医)「看護のための人間発達学」 医)系書「小児看護学概論・小児臨床看護総論」メ)「母性看護学概論・ウィメンズヘルスと看護」

【参考図書・文献】

【科目】	【時期】	【担当講師】	実務経験
ライフサイクル論2 (成人・女性・老年)	1年次 後期 【単位 時間数】 1単位 30時間	岸田 由紀 専任教員 坂本 哲子 専任教員 庵野 圭子 専任教員	8年 7年 16年

【概要】
人間を身体・心理・社会・スピリチュアル的側面の統合体であり、発達し続ける存在であるという観点から理解する。それぞれのライフサイクルにおける生活のあり方や健康課題の特徴を学び、看護の対象となる人々を理解するための基礎的な能力を養う。

- 【到達目標】
1. 青年期・成人期・老年期の発達の特徴について理解できる (知識・技能)
 2. 各期における健康課題を理解できる。(知識・技能)
 3. 看護の対象である人の成長発達を学ぶ意義について考える (思考・判断・表現) (学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	岸田	1. 青年期の発達の特徴 1) 青年期の心と身体 (青年期の定義・発達課題・形態機能学的側面、心理社会的側面、アイデンティティ確立・親密性の確立) 2) 発達に関わる健康上の問題 (群発自殺・ニート・フリーター・晩婚化・非婚化・受療率)	岸田 40%	筆記試験 100%
2		1. 青年期の心と身体 ①形態・機能的側面の発達 ②心理・社会・スピリチュアル的側面の発達 ・青年期とアイデンティティ ・アイデンティティの形成過程 ・職業的社会化 ③発達に関わる健康上の問題 ・群発自殺 ・ひきこもり ・フリーター・晩婚化・非婚化 ④発達に必要な支援		
3	岸田	2. 成人期の発達の特徴 1) 成人期の心と身体 (成人期の定義・発達課題・形態機能学的側面、心理社会的側面、家族・仕事・地域からみた成人期の特徴) 2) 発達に関わる健康上の問題 (死因・受療率・生活習慣病の予防・メタボリックシンドローム・自殺・うつ・ワークライフバランス・定年退職)	岸田 40%	筆記試験 100%
4		1. 成人期の心と身体 ①形態・機能的側面の発達 ②心理・社会・スピリチュアル的側面の発達 ・ストレス ③発達に関わる健康上の問題 ・生活習慣に関連する健康障害 ・職業に関連する健康障害 ・成人の自殺 ・喪失体験 ④発達に必要な支援 ・特定健康診査・特定保健指導 ⑤健康の保持・増進に向けた取り組み ・健康日本21 ・労働基準法 ・労働安全衛生法		
5		3) 職業に関する健康障害 (機動・騒音・有機溶剤・VDT作業・アスベスト・職業性腰痛)		
6		4) 生活ストレスによる健康障害 (喪失体験)		
7	庵野	1. 老年期とは	岸田 40% 庵野 45% 坂本 15%	筆記試験 100%
8		2. 老年期の心身の変化		
9		3. 老年期の健康課題		
10		4. 加齢に伴う様々な変化が生活に与える影響		
11		5. 老年期にある人の生活		
12	坂本	6. 老年期の多様性に対応する看護	岸田 40% 庵野 45% 坂本 15%	筆記試験 100%
13		7. 老年期を生きる人		
14	坂本	1. 女性のライフサイクル (各期の特徴) と健康問題	岸田 40% 庵野 45% 坂本 15%	筆記試験 100%
15		2. 性ホルモンが女性のライフサイクルに与える影響		
15	坂本	1. 女性のライフサイクル 2. 女性の生涯における身体の変化 ①性周期 (妊娠の成立を含む) ②月経 ③生殖系 ④身体の変化に伴う健康問題 3. 女性の生涯における心理・社会的発達 ①女性としての心の発達 ②医療における女性の役割 ③社会・経済と女性	岸田 40% 庵野 45% 坂本 15%	筆記試験 100%

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

関連科目：心理学 教育学 ウィメンズヘルス概論 小児の健康と看護 高齢者の健康と制度

【テキスト】

- 区)「看護のための人間発達学」
南)「成人看護学概論」
医)系書「老年看護学」
メヂカル)「女性看護学概論 ウィメンズヘルスと看護」
【参考図書・文献】

【科目】 ライフサイクル論演習	【時期】 1年次 後期 【単位 時間数】 1単位 15時間	【担当講師】 金子 裕子 専任教員	実務経験 20年
--------------------	--	----------------------	-------------

【概要】

人の一生のアルバム作りなどを通して人の誕生から死までを連続して捉え、生涯発達や「ライフサイクル」を理解する。また、さまざまな発達段階にある人を、成長発達・健康・生活・環境の視点から理解する。

【到達目標】

1. アルバム作りを通して人間発達を俯瞰し、統合的に捉えることができる。(知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)
2. 人間の成長・発達に興味、関心を高めることができる。(知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)
3. 計画的に取り組むことができる。(学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	金子	1.オリエンテーション 2.個人ワーク(人の一生のアルバム作り)	金子 100%	学習の成果物 100% (ルーブリックあり)
2		① 乳児期 ② 幼児期 ③ 学童期 ④ 思春期 ⑤ 青年期 ⑥ 壮年期 ⑦ 向老期 ⑧ 老年期		
3				
4				
5				
6				
7	金子	3.プレゼンテーション・グループワーク	1) レポート作成と発表 「テーマ：生涯発達過程のアルバム作りを終えて」	
8*		まとめ		

【講義に向けての課題・特記事項】

状況により内容が変更になる場合があります。

関連科目

心理学 教育学 ウィメンズヘルス
 ス概論 小児の発達と看護 高齢者の健康と制度

【テキスト】

【参考図書・文献】

医)「看護のための人間発達学」 医)系看「小児看護学概論・小児臨床看護総論」
 メヂカル)「母性看護学概論 ウィメンズヘルスと看護」 南)「成人看護学概論」 医)系看「老年看護学」

【科目】 生化学	【時期】 1年次 前期 【単位 時間数】 1単位 15時間	【担当講師】 木田 岩男 森ノ宮医療大学 保健医療学部看護学科 教授	実務経験 (無し)
------------------------	--	---	--------------

【概要】
 代謝を軸とする生命反応を概念的に理解する。また細胞の構造と機能・代謝のあらましを理解し体内での物質変化が理解できる。

【到達目標】
 人体の正常な栄養・代謝についての概略を理解し、特に代謝の障害とそれに対する治療・看護を学ぶために必要な基礎的知識を習得する。
 (知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	代謝の概要	1. 代謝総論 教授内容(教育要綱) 生化学を学ぶための基礎 放射性同位体まで	100%	筆記試験 100%
2	代謝の基礎	2. 生命維持に必要な栄養素の構造と性質		
3		3. 酵素		
4		4. 糖質代謝		
5		5. 脂質代謝		
6		6. 蛋白質とアミノ酸の代謝		
7		7. 核酸・ヌクレオチドの代謝		
8		8. エネルギー代謝の統合と制御		

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
 医)系看「生化学」

【参考図書・文献】

【科目】 形態機能学1 『形態機能学を学ぶ意義』 『恒常性を維持するための物質の流通に関連する形態機能について学ぶ』	【時期】 1年次 前期 【単位 時間数】 1単位 30時間	【担当講師】 木田 岩男 森ノ宮医療大学 保健医療学部看護学科 教授	実務経験 (無し)
--	--	---	--------------

【概要】
 『解剖生理学』という医学モデルから、看護の対象である人を生活者として捉え『日常生活行動』を主軸に構築し枠組みを示した。看護実践者としてのフィジカルアセスメントを行う上での基礎となる人間のからだのつくりや動きを理解するとともに、『動く』『食べる』『息をする』『トイレに行く』という日常生活行動の視点から看護を考えるヘルスアセスメントの基盤ともなり、看護ケア提供におけるアセスメントに必要な知識を身につけること、合わせて、普段学生自身もやっている日常生活行動の視点から、からだのつくりやはたらきを理解することで、学生の興味・関心・意欲の向上となり効果的な学習成果となることをねらいとした。

- 【到達目標】**
1. 正常な人体の諸器官の形態と機能について学ぶ意義を理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現)
 2. 生命維持にとっての恒常性維持の内容と意義を理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現)
 3. どのようなからだの仕組みを使って、日常生活行動を行っているのかを説明できる。
(知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)
 4. からだの仕組みが障害された時、生きていること、日常生活行動にどう影響するのかを考える道筋を説明できる
(知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法	
1	からだの基礎知識	1. からだの基礎知識 (第1章) 1) 人体の細胞と組織 2) 分化した細胞がつくる組織 【上皮組織・筋組織・結合組織・神経組織】 3) 人体の構造と機能 【生命維持システム、運動・調節システム、体液とホメオスタシス、内部環境とホメオスタシス】	教授内容(教育要綱) 解剖生理学とは 人体の諸層性、細胞 組織 機能からみた人体・体液 ホメオスタシス、体液の組成	100%	筆記試験 100%
2		『恒常性を維持するための物質の流通に関連する形態機能について学ぶ』(第3章C、第4章)	血液の組成・役割、赤血球の構造と機能		
3			酸素解離曲線		
4			赤血球の新生と破壊、貧血と黄疸、等張液		
5	白血球、血小板				
6	血漿、血液凝固、線溶				
7	血液型、交差適合試験				
8	循環器系の概要、心臓の構造				
9	冠循環、神経支配(心外膜・心タンポ)				
10	心電図、心臓の収縮				
11	血液の循環経路、心臓の収縮、心周期、心負荷				
12	主存血管、血圧とその調節、微小循環、リンパ系、				
13					
14					
15					

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
 医)系看「解剖生理学」
【参考図書・文献】
 日看協)「看護形態機能学」 学)「病態生理 基礎のキソ」

【科目】 形態機能学2 『息をする』『動く』『見る』『聴く』『話す』と言う日常生活行動に関連する形態機能について学ぶ	【時期】 1年次 前期 【単位 時間数】 1単位 30時間	【担当講師】 茅野 友宣 園田学園女子大学人間看護学科 築田 誠 兵庫県立大学 看護学部 看護実践基礎講座 看護病態学	実務経験 5年 後期更新
--	--	--	--------------------

【概要】
『解剖生理学』という医学モデルから、看護の対象である人を生活者として捉え『日常生活行動』を主軸に構築し枠組みを示した。看護実践者としてのフィジカルアセスメントを行う上での基礎となる人間のからだのつくりや働きを理解するとともに、『動く』『食べる』『息をする』『トイレに行く』という日常生活行動の視点から看護を考えるヘルスアセスメントの基盤ともなり、看護ケア提供におけるアセスメントに必要な知識を身につけること、合わせて、普段学生自身も行っている生活行動の視点から、からだのつくりやはたらきを理解することで、学生の興味・関心・意欲の向上となり効果的な学習成果となることをねらいとした。

- 【到達目標】
1. 正常な人体の諸器官の形態と機能について学ぶ意義を理解する。(知識・技能) (思考・判断・表現)
 2. 生命維持にとっての恒常性維持の内容と意義を理解する。(知識・技能) (思考・判断・表現)
 3. どのようなからだの仕組みを使って、日常生活行動を行っているのかを説明できる。
(知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)
 4. からだの仕組みが障害された時、生きていること、日常生活行動にどう影響するのかを考える道筋を説明できる
(知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法	
1	茅野	『動く』という日常生活行動に関連する形態機能について学ぶ(第7章) 1. 細胞の電気的活動 2. 骨格筋の構造と機能 3. 運動神経系 4. 骨の構造と機能 5. 関節の構造と機能 6. 体幹の運動 7. 上肢の運動 8. 下肢の運動 9. 脊髄神経の構造と機能	100%	筆記試験 100%	
2					教授内容(教育要綱) 人体とは、生活から身体への理解、筋組織、神経筋接合部 筋の収縮、骨格筋、心筋、平滑筋、人体の骨格
3					関節の構造と可動性、骨格筋の作用、椎骨の形態、 胸郭胸部の筋、腹部の筋、
4					上肢帯、上腕、前腕、手の筋群上 肢の運動、肘関節、下肢の骨格、骨盤、大腿骨、下肢帯の筋、 大腿の筋
5		『見る』『聴く』『話す』と言う日常生活行動に関連する形態機能について学ぶ(第8章) 1. 神経機能の基礎 2. 大脳・間脳の構造と機能 3. 脳幹・小脳の構造と機能 4. 脳神経の構造と機能 5. 自律神経の構造と機能 6. 疼痛 7. 視覚器 8. 平衡感覚器 9. 味覚・嗅覚			延髄、橋、中脳の構造と機能、脳幹網様体、小脳
6					間脳の構造、視床下部の構造と機能、大脳の構造と機能、機能 局在
7					脊髄神経の構造と神経叢 脳神経の構造と働き
8					脳の高次機能、中枢神経の障害、 離体路
9					外眼筋、視覚伝達路、耳の構造と聴覚、平衡覚、味覚器、嗅覚 器
10					痛み、関連痛、急性痛と慢性痛、疼痛の発生機能
11 45分					自律神経系の神経伝達物質、受容体
12	築田	1.呼吸器の機能と構造 2.呼吸の生理	呼吸の構造と機能		
13		呼吸運動			
14		ガス交換			
15		全身への酸素運搬・供給・換気			

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
医)系看「解剖生理学」
【参考図書・文献】

【科目】 形態機能学3 『食べる』『トイレに行く』という日常生活行動に関連する形態機能を学ぶ	【時期】 1年次 後期 【単位 時間数】 1単位 30時間	【担当講師】 薬田 誠 兵庫県立大学 看護学部 看護実践基礎講座 看護病態学	実務経験 (後期更新)
---	--	--	----------------

【概要】
 『解剖生理学』という医学モデルから、看護の対象である人を生活者として捉え『日常生活行動』を主軸に構築し枠組みを示した。

【到達目標】

1. 正常な人体の諸器官の形態と機能について学ぶ意義を理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現)
2. 生命維持にとっての恒常性維持の内容と意義を理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現)
3. どのようなからだの仕組みを使って、日常生活行動を行っているのかを説明できる。
 (知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)

からだの仕組みが障害された時、生きていること、日常生活行動にどう影響するのかを考える道筋を説明できる。
 (知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	薬田	『食べる』『トイレに行く』という日常生活行動に関連する形態機能を学ぶ(第2章, 第5章)	100%	筆記試験 70% 小テスト 課題レポート 30%
2		1. 口の構造と機能		
3		2. 嚥下と咀嚼		
4		3. 消化と吸収		
5		4. 腹部消化管【胃、小腸、大腸】の構造と機能		
6				
7		5. 肝臓、胆嚢、膵臓の構造と機能		
8				
9				
10		6. 排便		
11				
12		7. 尿の生成と排尿機能		
13				
14		8. 水分の出納と体液量調整のメカニズム		
15 45分				

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
 医)系書「解剖生理学」

【参考図書・文献】

【科目】 形態機能学4 『恒常性を維持するための調節機能』『子どもを産む』という子孫を残すことに関連する形態機能について学ぶ 『形態機能学のまとめ』	【時期】 1年次 後期 【単位 時間数】 1単位 15時間	【担当講師】 木田 岩男 森ノ宮医療大学 保健医療学部看護学科 教授	実務経験 (無し)
---	--	---	---------------------

【概要】
 『解剖生理学』という医学モデルから、看護の対象である人を生活者として捉え『日常生活行動』を主軸に構築し枠組みを示した。看護実践者としてのフィジカルアセスメントを行う上での基礎となる人間のからだのつくりや働きを理解するとともに、『動く』『食べる』『息をする』『トイレに行く』という日常生活行動の視点から看護を考えるヘルスアセスメントの基盤ともなり、看護ケア提供におけるアセスメントに必要な知識を身につけること、合わせて、普段学生自身も行っている生活行動の視点から、からだのつくりやはたらきを理解することで、学生の興味・関心・意欲の向上となり効果的な学習成果となることをねらいとした。

- 【到達目標】**
1. 正常な人体の諸器官の形態と機能について学ぶ意義を理解する。(知識・技能) (思考・判断・表現)
 2. 生命維持にとっての恒常性維持の内容と意義を理解する。(知識・技能) (思考・判断・表現)
 3. どのようなからだの仕組みを使って、日常生活行動を行っているのかを説明できる。
(知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)
 4. からだの仕組みが障害された時、生きていること、日常生活行動にどう影響するのかを考える道筋を説明できる
(知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	木田	『恒常性を維持するための調節機能』 1. ホルモンの作用機序 2. ホルモン分泌の調節 3. 恒常性のためホルモンの働き 4. 非特異的生体防御機構 5. 特異的生体防御機構 6. 体温と調節	100%	筆記試験 100%
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8		『子どもを産む』という子孫を残すことに関連する形態機能について学ぶ 1. 生殖の構造と機能【男性生殖器和女性生殖器】 2. 胎児・胎盤の血液循環		
9				
10				
11				
12				
13		『形態機能学のまとめ』 1. 成長と老化		
14				
15				

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】

医)系看「解剖生理学」

【参考図書・文献】

日看協)「看護形態機能学」 学)「病態生理 基礎のキソ」

【科目】 形態機能学演習	【時期】 2年次 前期 【単位 時間数】 1単位 20時間	【担当講師】 坂本 哲子 専任教員	実務経験 7年
-----------------	--	----------------------	------------

【概要】

人体の諸器官の形態・構造および位置関係について、トルソなどを活用しながら、立体的に確認し、生きること・日常生活行動の営みと関連づけて理解を深める。

【到達目標】

1. 人体における各系統の形態と構造を学習し、理解することができる。(知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)
2. 日常生活行動を営んでいる身体の仕組みを立体的にとらえ、既習の形態機能学・病理学の知識を活用して説明できる。(知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)
3. プロジェクト学習の方略を用いて、ビジョンとゴールを明確にしながら展開できる。(学びに向かう力)
4. プロジェクトチームの一員としての役割を果たすことができる。(学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法	
1	坂本	1. 形態機能学演習の進め方：プロジェクトガイダンス	100%	学習の成果物 100% (ループ リックあり)	
2		2. プロジェクトチームでビジョン・ゴールを明確にしながら展開する			
3		3. 日常生活行動を営む身体のしくみについて、既習の知識を用いて理解する			
4		4. 形態機能学テスト実施			
5		5. チームで担当する臓器別系統別に人体の構造について位置関係を調べる。			
6					
7					
8					5. チーム学習の成果をプレゼンテーションする
9					6. 凝縮ポートフォリオをもとに、個人学習をすすめ個人用ポートフォリオにまとめる
10					

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

- ・チームプロジェクトの方略を活用し、主体的に活動する。
- ・形態機能学の既習の知識を活用して、～のからだの仕組みについて説明してください。

【テキスト】

【参考図書・文献】

医)系書「解剖生理学」 日看協)「看護形態機能学」 日看協)「ヘルスアセスメント」

【科目】 ヘルスプロモーション 基盤 1	【時期】 1 年次 前期 【単位 時間数】 1 単位 30時間	【担当講師】 西岡 万智子 専任教員 実務経験 13年
----------------------------	--	--------------------------------------

【概要】
あらゆるライフサイクル・あらゆる場で生活している人々を対象とし、健康をコントロールし改善するヘルスプロモーションの概念、およびプロセス戦略と活動方法について理解する。
看護の歴史と変遷、主要概念である人間・健康・環境・看護について学び、ヘルスプロモーションにおける看護の対象や活動の場、役割と機能について理解する。

【到達目標】
1. 人々の健康観にもとづく、ヘルスプロモーションに関心を寄せる。(知識・技能)(学びに向かう力)
2. ヘルスプロモーションの概念について理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現)
3. ヘルスプロモーションの活動方法とプロセスについて理解する(知識・技能)(思考・判断・表現)
4. ヘルスプロモーションの健康の捉え方について学ぶ。(知識・技能)(思考・判断・表現)

【授業計画・内容】				評価割合	評価方法
回数	担当講師	主な内容			
1	西岡	1. ヘルスプロモーションの概要	1) ヘルスプロモーションの定義(1)健康とは ①アルマアタ宣言 ②健康決定要因 (2)ヘルスプロモーションの活動方法 ①5つの戦略 ②5つの活動 ③保健行動	100%	筆記試験 100%
2		2. ヘルスプロモーションと看護	1) 人々が暮らす様々な生活の場 2) ヘルスプロモーションにおける看護の対象と活動の場 3) ヘルスプロモーションにおける看護の機能と役割		
3					
4		看護の歴史と変遷	1) 古代の医療と看護・世界における発展過程(戦争及び宗教と看護) 2) 近代医療・看護への発展の要素 3) 現代医療・看護と今後への変遷 <グループワーク・発表> 4) 保健師助産師看護師法 法律の変遷・各専門職の定義 専門職の守秘義務・欠格事由 看護職の法的責任 5) 看護教育制度とその変遷と問題 認定・専門看護師 特定行為		
5					
6					
7					
8		対象理解に必要な概念	1) 本校の主要概念の捉え方について 2) 人間とは 成長・発達、動機づけ(ニード) 身体的・心理的・社会的・スピリチュアル的な統合体 看護の対象:個人、家族、集団、地域社会 3) 健康とは WHO定義、健康—不健康連続体 健康状態・ウェルネスの概念 健康日本21 疾病の諸要因 生活習慣と健康 ホメオスタシス 4) 環境とは 内部環境と外部環境 地域・在宅・医療と生活 5) 人間—健康—環境の関連性 ニード(マズロー、ヘンダーソン) ライフサイクルと健康 ストレス・コーピング(適応)		
9					
10					
11		健康状態の理解	1. 健康状態の理解 (1) 健康の維持・増進期にある人 (2) 急性期にある人 (3) 慢性期にある人 (4) 終末期にある人 それぞれのニーズと特徴・生活の場		
12					
13					
14					
15		まとめ	まとめ(45分)・終講試験(終講試験)		

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

- ・GW活動の課題には事前の準備をしっかりと、積極的に参加し、自己表現力を磨いて下さい。
- ・課題は講義に参加するためには必修です。

【テキスト】

メ)「ヘルスプロモーション」 医)「看護学概論」

【参考図書・文献】

医)「臨床看護総論」

【科目】 ヘルスプロモーション 基盤2	【時期】 2年次 前期・後期 【単位 時間数】 1単位 30時間	【担当講師】 濱田 真由美 本校 副学校長 鳥井元 純子 大阪府看護学校協議会 前会長	実務経験 6年 (後期更新)
---------------------------	---	---	----------------------

【概要】

ヘルスプロモーションを支援する看護実践の科学的基盤となる理論を学び、どのように活用されるのかを理解する。主なヘルスプロモーションの理論について理解する。
また、看護専門職者として適切な倫理的意思決定と行動のために必要な基本的知識を学習する。

【到達目標】

1. 看護理論とは何かがわかる。(知識・技能)
2. 看護実践における理論の位置づけと意義について理解できる。(知識・技能)
3. 大理論、中範囲理論、小理論について説明できる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
4. 中範囲理論を活用し実践した看護の意義を説明できる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
5. 看護倫理の基本的概念を理解する。(知識・技能)
6. 看護者として、対象の生命、尊厳、権利を守ることに対する責任感を養う。(学びに向かう力)
7. 看護者に求められる倫理、医療、看護の場で遭遇する倫理的問題・課題、ジレンマについての学習を通して看護者としての倫理観を構築する。(思考・判断・表現)
8. 倫理的判断に必要な理論、解決方法を学習し、倫理的視点から看護者として適切な判断、行動を行えるための倫理的態度を習得する。(知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	濱田	1. 看護理論を学ぶ意義、看護理論の基礎的な知識について	濱田 50%	プレゼンテーション50% (ループリックあり)
2		2. 看護理論の分類 ①大理論②中範囲理論③小理論		
3		3. 看護理論の変遷と主要な看護理論		
4		4. 看護理論の変遷と主要な看護理論 (グループワーク) 1) ニード論: ウィーデンバック・オーランド 2) 相互作用理論 (人間関係論): ペプロウ 3) システム理論: ロイ 4) ケアリング理論: ワトソン、ベナー 5) セルフケア理論: オレム		
5		5. 看護理論を理解する (発表)		
6		6. 看護理論の適応と活用 (事例に対応させて、学んだ看護理論の理解を深める) グループワーク		
7		個人レポート: 看護理論を学ぶ意義について		
8				
9	鳥井元	1. 看護の倫理と基本姿勢 1) 自律の6つの原則 2) 価値 3) 道徳的ジレンマと倫理的問題	鳥井元 50%	筆記試験50%
10		4) 倫理的意思決定と行動 ①「リターナリズム」と「フォーム」コンセプト ②本人の意思決定と代理意思決定		
11		5) 倫理的判断に必要な基本的知識 看護職の倫理綱領について 事例に対応させて、倫理的意思決定プロセス・倫理判断を学ぶ (グループワーク)		
12		2. 意思決定とヘルスリテラシー		
13		1) ヘルスリテラシーのスキル・測定		
14		2) ヘルスコミュニケーション		
15				

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

- ・GW活動の課題には事前の準備をしっかりと、積極的に参加し、自己表現力を磨いて下さい。
- ・課題は講義に参加するためには必修です。

【テキスト】

南)「看護倫理」「看護理論」(照)「よくわかる看護者の倫理綱領」

【参考図書・文献】

現)「看護覚え書」(日本看護協会出版会)「看護の基本となるもの」(医)「人間発達学」
(医)「看護理論家とその業績」(日看護)「看護理論集」

【科目】 医療論	【時期】 1年次 前期 【単位 時間数】 1単位 15時間	【担当講師】 戸田 為久 本校 学校長	実務経験 30年																						
【概要】 現代の医療現場で問われている今日的な課題や新しい学問領域について学習する。 また看護専門職として求められる看護や必要な資質について、自ら振りかえる姿勢を養う。 医療制度をめぐる倫理的問題についても思考する。																									
【到達目標】 1. 医学の発展の歴史及び医学が人々や社会に対して果たす役割を理解する。(知識・技能) (思考・判断・表現) 2. 医療における患者の権利について理解する。(知識・技能) (思考・判断・表現) 3. 医療における倫理的問題について考えることができる。(知識・技能) (思考・判断・表現) 4. 医学・医療とは何か、現代医療の在るべき姿と課題について考えることができる。 (知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)																									
【授業計画・内容】																									
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回数</th> <th style="width: 10%;">担当講師</th> <th style="width: 65%;">主な内容</th> <th style="width: 10%;">評価割合</th> <th style="width: 10%;">評価方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td rowspan="7" style="text-align: center; vertical-align: middle;">戸田</td> <td>医学の歴史</td> <td rowspan="7" style="text-align: center; vertical-align: middle;">100%</td> <td rowspan="7" style="text-align: center; vertical-align: middle;">筆記試験 100%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>疾病の流行と社会背景</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>社会・政治状況や体制と医療の相互関係</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>疾病に対する総合的視点</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>患者学</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代医療の倫理的問題</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>医療倫理ケーススタディ</td> </tr> </tbody> </table>	回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法	1	戸田	医学の歴史	100%	筆記試験 100%	2	疾病の流行と社会背景	3	社会・政治状況や体制と医療の相互関係	4	疾病に対する総合的視点	5	患者学	6	現代医療の倫理的問題	7	医療倫理ケーススタディ			
回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法																					
1	戸田	医学の歴史	100%	筆記試験 100%																					
2		疾病の流行と社会背景																							
3		社会・政治状況や体制と医療の相互関係																							
4		疾病に対する総合的視点																							
5		患者学																							
6		現代医療の倫理的問題																							
7		医療倫理ケーススタディ																							
※筆記試験 1H																									
【講義に向けての課題・特記事項】																									
【テキスト】 医)系看「総合医療論」 【参考図書・文献】																									

【科目】 ヘルスプロモーション論 1	【時期】 1年次 後期 【単位 時間数】 1単位 15時間	【担当講師】 西岡 万智子 専任教員	実務経験 13年
-----------------------	--	-----------------------	-------------

【概要】
あらゆる健康課題における、人々の健康の維持・増進と疾病予防のために必要な方法を理解する。
人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようになるプロセスを支援する看護を学ぶ。

【到達目標】
1、保健行動の概念について理解する（知識・技能）（思考・判断・表現）
2、健康段階別保健行動の分類について理解する（知識・技能）（思考・判断・表現）
3、ヘルスプロモーションを支える理論と活用について理解する（知識・技能）（思考・判断・表現）
4、その人の健康観に基づき、保健行動に関心を寄せる（学びに向かう力）

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容		評価割合	評価方法
1	西岡	1、保健行動とは	1.保健行動とは 1)健康状態の経過の理解 2)健康増進行動、対象の特徴と支援の場と制度 3)予防的保健行動、対象の特徴と支援の場と制度 4)病気回避行動、対象の特徴と支援の場と制度 5)病気対処行動、対象の特徴と支援の場と制度 6)ターミナル対処行動、対象の特徴と支援の場と制度	100%	筆記試験 100%
2					
3					
4		2、ヘルスプロモーションを支える保健行動理論 1)発達段階に応じた学習支援論：ペタゴジー・アンドラゴジー・ジェロゴジー 2)ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ			
5			3)健康行動に必要な理論： 健康信念モデル・変化のステージモデル・自己効力感 危機理論、ストレスと対処、 レジリエンス・リカバリー・ストレングス・エンパワメント		
6					
7					
8		終講試験			

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
メ)「ヘルスプロモーション」

【参考図書・文献】
メ)「行動科学からみた健康と病気」

【科目】 ヘルスプロモーション論 2-1	【時期】 1年次 後期	【担当講師】	実務経験
	【単位 時間数】 1単位 30時間	金子 裕子 専任教員 岸田 由紀 専任教員 坂本 哲子 専任教員	20年 8年 7年

【概要】
あらゆる対象別の健康の維持・増進と疾病予防のために必要な制度を理解し、人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようになるプロセスを支援する看護を学ぶ。

- 【到達目標】
1. あらゆる対象の健康生活におけるヘルスプロモーションについて理解する（知識・技能）（思考・判断・表現）
 2. あらゆる対象の健康に与える影響について理解し、健康課題と看護の役割について理解する。（知識・理解）
 3. あらゆる対象の健康を支える制度と政策を理解する（知識・技能）（思考・判断・表現）
 4. あらゆる対象のもつ健康観について興味を示す（知識・技能）（思考・判断・表現）（学びに向かう力）

【授業計画・内容】					評価割合	評価方法
回数	担当講師	主な内容				
1	小児のヘルスプロモーション	金子	1、小児看護の特徴と理念	1)小児看護の対象と小児の家族と諸統計 2)小児看護の変遷 3)小児看護における倫理	金子 15% 岸田 70% 坂本 15%	筆記試験 100%
2						
3	成人のヘルスプロモーション	岸田	2、成人看護の特徴と理念	1. 成人の健康 1)発達の特徴 2. 健康生活におけるヘルスプロモーション 1)栄養と食生活 2)活動と休養、睡眠 3)歯・口腔の健康 4)嗜好品 5)学校、仕事 6)ストレスマネジメント 7)人間関係づくり 8)趣味、生きがい 3. 健康課題とヘルスプロモーション 1)生活習慣病 2)悪性新生物 3)職業に関連する健康問題:職業性疾病、過労死 4)ストレス関連する健康問題 4. 看護の役割とその実際		
4						
5						
6						
7						
8	高齢者のヘルスプロモーション	岸田	3、高齢者看護の特徴と理念	1. 高齢者の特徴 1)発達の特徴 2)高齢者の健康 2. 健康生活におけるヘルスプロモーション 1)高齢者の健康づくりに関する制度・法律 2)介護予防 3. 健康課題とヘルスプロモーション 1)加齢に伴い潜在化する生活習慣病 2)高齢者の自立した生活を阻む要因 3)複数の疾患を併せもつ高齢者の薬物管理 4)介護支援 5)高齢者のエンド・オブ・ライフケア 4. 看護の役割とその実際		
9						
10						
11						
12						
13						
14	女性のヘルスプロモーション	坂本	女性の健康健康の考え方	1. 女性の健康の考え方と変遷 1)人権と健康 2)女性の健康と歴史 3)リプロダクティブ・ヘルツ/ライツ 4)セクシュアルヘルス 5)セクシュアリティの概念、セクシャリティの発達、性の多様性		
15						

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
メ)「ヘルスプロモーション」 メ)母性看護学概論 医)系看「小児看護学概論・総論」

【参考図書・文献】
医)看護のための人間発達学」

【科目】	【時期】	【担当講師】	実務経験
ヘルスプロモーション論 2-2	2年次 前期 【単位 時間数】 1単位 15時間	西岡 万知子 専任教員 岸田 由紀 専任教員	13年 8年

【概要】
あらゆる対象別の健康の維持・増進と疾病予防のために必要な制度を理解し、人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようになるプロセスを支援する看護を学ぶ。

- 【到達目標】
- 1、あらゆる対象の健康生活におけるヘルスプロモーションについて理解する(知識・技能)(思考・判断・表現)
 - 2、あらゆる対象の健康に与える影響について理解し、健康課題と看護の役割について理解する。
(知識・技能)(思考・判断・表現)
 - 3、あらゆる対象のもつ健康観について興味を示す(知識・技能)(学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	西岡	1. 精神の健康	50%	筆記試験100%
2		1) メンタルヘルスとは 2) 心の機能と発達 3) 自殺対策 4) リエゾン精神看護 5) 看護師のメンタルヘルス		
3		2. 健康生活におけるヘルスプロモーション		
4		1) 家庭における精神保健活動 2) 学校における精神保健活動 3) 地域における精神保健活動 4) 保健医療従事者における精神保健活動		
5	岸田	1. 地域の健康とヘルスプロモーション	50%	
6		2. 地域におけるヘルスケアシステムと在宅看護 3. 在宅看護とは 4. 在宅看護の対象者		
7		5. 在宅看護の基本倫理 6. 在宅看護を支える制度		

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
メ) 「ヘルスプロモーション」

【参考図書・文献】

【科目】 ヘルスサービス1 (看護技術の基盤、安全感染、学習支援、看取り)	【時期】 1年次 前期 【単位 時間数】 1単位 20時間	【担当講師】 大西 恵梨 専任教員	実務経験 7年
---	--	----------------------	------------

【概要】
あらゆる人々が自身の健康に関心を持ち、日常生活において健康的な行動ができるように支援する基礎を学ぶ。

- 【到達目標】
1. 感染予防と安全確保に向けた基礎知識を獲得できる。(知識・技能)
 2. あらゆる人々が感染予防と安全確保に興味関心を示すことができる(思考・判断・表現)(学びに向かう力)
 3. 看護における安全性の重要性が理解できる。(思考・判断・表現)
 4. 健康維持するための興味・関心を示すことができる。学習支援に向けた基礎知識を獲得できる。(知識・技能)
 5. 死の看取りの援助の意義と実際を理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	大西	看護技術概説 1. 授業・演習の進め方 2. ヘルスプロモーションを支える基本的な看護技術とは 1) 技術とはなにか 2) 看護技術の特徴 3) 看護技術の範囲 4) 看護技術と看護行為 3. 看護技術を適切に実践するための要素 1) 知識と判断 2) 実施と評価 3) 対象者への説明と同意 4) 安全・安全確保 5) プライバシーの保護 6) 支持確認、報告・記録 7) 個別性への応用 8) 家族相談・助言 4. 看護技術修得に向けて	100%	筆記試験 100%
2		1. 感染とその予防の基礎知識 2. 感染予防の重要性 3. 感染成立の条件		
3		4. 感染を防止する標準予防対策 1) 衛生的な手洗い 2) 防護具の装着 手袋、マスク、ガウン、プラスチックエプロン、ゴーグル、フェイスシールドの着脱方法		
4		5. 感染性廃棄物の取り扱い 1) 無菌操作(綿子・滅菌衛生材料) 6. 咳エチケット 7. 感染経路と予防策 1) 洗浄・消毒・滅菌 2) 針刺し防止策		
5		1. 安全確保の技術 1) 我が国における医療の安全確保 2) 転倒・転落の基礎知識 ① 転倒転落の要因(個人・医療者) ② 転落防止に向けたヘルスプロモーション活動 1) 患者誤認防止 2) 転倒転落防止 3) チューブ類の予定外除去4) KYTトレーニング		
6		1. 健康に生きることを支える学習支援 1) 健康に関する考え方と健康管理の目的・意義 2) 健康に関する権利と義務 3) 3) 我が国における健康についての価値観 4) 健康を脅かす要因とは(社会的決定要因) 5) 健康状態に伴う学習支援の場(外来・入院時・退院時) 6) 健康になるための知識や技術を高めるための支援 7) 健康教育を受ける場(家庭・学校・職場・地域)		
7		2. ホーパタウンの住人を活用し、健康に生きることを支えるための学習支援内容の発表 1) 対象(個人または集団)の健康へのニーズの把握 2) 学習支援の目標設定 3) 場の設定 4) 媒体の活用 5) 対象の行動変容を促すための工夫		
8				
9 45分				
10		1. 死の看取りの援助 1) 死にいたるまでの多様な過程 2) 死を予知したひとの反応 3) 死の三徴候と経時的な変化 4) 死後の処置		

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
医)系看「基礎看護技術Ⅰ」「基礎看護技術Ⅱ」 日看協「看護形態機能学」

【参考図書・文献】
医)系看「基礎・臨床看護技術」

【科目】 ヘルスサービス2 (環境づくり・ヘルスコミュニケーション)	【時期】 1年次 前期 【単位 時間数】 1単位 15時間	【担当講師】 大西 恵梨 専任教員	実務経験 7年
--	--	----------------------	------------

【概要】
健康を支援するために必要な環境づくりの基本的知識と技術を学ぶ。

【到達目標】
1. 人々が健康な生活を送るための環境の基礎知識を獲得できる。(知識・技能)
2. ヘルスコミュニケーションについて理解できる。(知識・技能)
3. よりよい生活を目指すためのヘルスコミュニケーションを活用した支援ができる。(思考・判断・表現) (学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	大西	1. 環境と人間の健康 2. 環境を原因とする健康障害	100%	筆記試験 100%
2		3. 医療の場における環境調整 1) 快適な療養環境の整備 病室内環境の構成要素 温度・湿度(室内気候)、採光と照明、色彩、音、空気の清浄性と臭い 病棟の構造と病床、環境調整に関連したヒヤリ・ハット		
3		4. ベッド周囲の環境と調整 2) ベッドメイキング【演習】		
4		3) 臥床患者のリネン交換【演習】		
5		1. コミュニケーションとは 2. ヘルスコミュニケーションとは 3. ヘルスコミュニケーションの種類 対人コミュニケーション 組織コミュニケーション		
6		4. 意思決定に影響するコミュニケーション ・接近的コミュニケーションの原理 ・接近的行動の前提となる基本的な態度 ・接近的行動と非接近的行動		
7		5. 役立つ健康情報の伝達方法 ・傾聴の技術 ・情報収集の技術 ・説明の技術 6. 行動変容に結び付けるコミュニケーション ・コミュニケーションに障害がある人の特徴 ・言語的コミュニケーションに必要な身体機能		

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】

医)系看「基礎看護技術Ⅰ」「基礎看護技術Ⅱ」 日看協)「看護形態機能学」

【参考図書・文献】

医)系看「基礎・臨床看護技術」

【科目】	【時期】	【担当講師】	実務経歴			
ヘルスサービス3 (「動く・眠る」「食べる」を支える看護技術)	1年次 前期 【単位 時間数】 1単位 20時間	中村 ゆかり 専任教員 萩原 裕恵 専任教員	38年 8年			
【概要】 人々の健康を維持するための人間の日常生活行動の意義を理解し、対象の生活を整えるための基礎的な知識と技術を習得する。						
【到達目標】 1. 生命の維持や健康の維持に必要な日常生活動作の「動く・眠る」「食べる」の意義がわかる。(知識・技能) 2. 「動く・眠る」「食べる」の形態機能の一連の動作がわかり、援助の目的を明確にし具体的方法を習得する。 (思考・判断・表現) (学びに向かう力)						
【授業計画・内容】						
回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法		
1	萩原	1. 活動・運動の現状と課題 1) 高齢者のからだを動かすことの意味 2) 運動機能の加齢的变化 - ロコモティブ症候群、サルコペニア、フレイル 2. 活動と運動に影響する要因 3. 活動と運動のアセスメント 4. 活動と運動を促す援助 1) 生活リズムを整える看護 1) ボディメカニクス 2) 移動(体位変換・歩行・移乗・移送) 5. 休息と睡眠の意義 6. 休息と睡眠に影響する要因 7. 休息と睡眠のアセスメント 8. 休息と睡眠を促す援助 9. 病衣の選び方 1) 活動と休息 2) 睡眠と休息の援助 3) 体位変換・移動、移乗・移送 4) 衣服・寝物の選択	萩原 60%	筆記試験 100%		
2		5) 苦痛の緩和・安楽確保の技術 ・安楽を提供するためのケア ①体位保持(ポジショニング) ②薬法③身体ケアを通じてもたらされる安楽				
3		10. 移動の援助の実際【演習】 1) ベッド上での左右移動 2) ベッドの上下移動 3) 仰臥位から側臥位 4) 仰臥位→ファウラー位 5) 仰臥位→長坐位→端座位 11. 体位保持の援助の実際 1) 仰臥位、側臥位、ファウラー位の体位保持				
4		12. 移乗・移送の援助の実際【演習】 1) 端坐位→立位 2) 車椅子移乗、移送 3) ストレッチャーへの移乗、移送 4) 歩行の援助				
5		1. 栄養・食生活のわが国の現状と課題 2. ヘルスプロモーションの取り組み 3. 栄養状態のアセスメント 4. 水分・電解質のアセスメント 5. 食欲のアセスメント 6. 摂食・嚥下能力のアセスメント 7. 摂食行動のアセスメント 8. 食生活変更の必要性、患者の認識、行動のアセスメント 9. 口から「食べる」ことができない場合の栄養摂取方法			中村 40%	
6		10. 食生活の意義 11. 食行動の過程 1) 栄養状態・食欲・摂取能力のアセスメント 12. 摂食嚥下障害がある場合の食事介助の基礎知識と実際 13. 非経口的栄養摂取の援助 1) 胃管の挿入と栄養物の注入 14. 食事・水分摂取に関連したヒヤリ・ハット				
7	15. 食事介助・非経口的栄養摂取の援助 1) 食事介助・経鼻胃管の挿入					
45分	16. 事例を用いて思考トレーニング【演習】 1) 摂食嚥下障害のない対象への食事介助 2) モデル人形での経鼻胃管の挿入と確認					
7	中村	1. 栄養・食生活のわが国の現状と課題 2. ヘルスプロモーションの取り組み 3. 栄養状態のアセスメント 4. 水分・電解質のアセスメント 5. 食欲のアセスメント 6. 摂食・嚥下能力のアセスメント 7. 摂食行動のアセスメント 8. 食生活変更の必要性、患者の認識、行動のアセスメント 9. 口から「食べる」ことができない場合の栄養摂取方法	中村 40%			
8		10. 食生活の意義 11. 食行動の過程 1) 栄養状態・食欲・摂取能力のアセスメント 12. 摂食嚥下障害がある場合の食事介助の基礎知識と実際 13. 非経口的栄養摂取の援助 1) 胃管の挿入と栄養物の注入 14. 食事・水分摂取に関連したヒヤリ・ハット				
9		15. 食事介助・非経口的栄養摂取の援助 1) 食事介助・経鼻胃管の挿入				
10		16. 事例を用いて思考トレーニング【演習】 1) 摂食嚥下障害のない対象への食事介助 2) モデル人形での経鼻胃管の挿入と確認				
※筆記試験 1H						
【講義に向けての課題・特記事項】						
【テキスト】 医)系看「基礎看護技術Ⅰ」「基礎看護技術Ⅱ」 日看協)「看護形態機能学」						
【参考図書・文献】 医)系看「基礎・臨床看護技術」						

【科目】 ヘルスサービス4 (「トイレに行く」「お風呂に入る」を支える看護技術)	【時期】 1年次 前・後期 【単位 時間数】 1単位 30時間	【担当講師】 大西 憲梨 専任教員 長尾 綾子 専任教員	実務経験 7年 14年
--	--	------------------------------------	-------------------

【概要】
人々の健康を維持するための人間の日常の生活行動の意義を理解し、対象の生活を整えるための基礎的な知識と技術を習得する。

- 【到達目標】
1. 清潔を守る日常生活動作の「お風呂にはいる」「トイレに行く」の生理的・社会的・精神的意義がわかる。(知識・技能)
 2. 「お風呂にはいる」「トイレに行く」の形態機能の一連の動作がわかり、援助の目的を明確にし、具体的方法を習得する。
(思考・判断・表現) (学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法				
1	長尾	1. 排泄の意義 1) 排泄障害の予防 2) 排泄障害が生活に及ぼす影響 3) 排泄器官の機能と排泄のメカニズム 2. 自然排尿・自然排便 3. 自然排泄の介助 4. 排便を促す援助(洗腸、摘便) 5. 排泄	大西 60% 長尾 40%	筆記試験 100%				
2		長尾			6. 事例を用いて思考トレーニング【演習】 1) トイレ・ポータブルトイレでの排泄援助 2) 床上排泄援助 3) おむつによる排泄 4) グリセリン洗腸(モデル人形)			
3					長尾	7. 一時的導尿の基礎知識と実際 8. 膀胱留置カテーテルを挿入している患者のカテーテル固定、ルート確認感染予防の管理		
4						長尾	9. 一次的導尿・持続導尿【演習】 1) 一次的導尿 2) 持続導尿のカテーテル固定・感染予防の管理	
5							長尾	1. 清潔の意義
6								長尾
7	大西							
8		大西						
9					大西			
10						大西		
11							大西	
12								大西
13	大西							
14		大西						
15 45分					大西			

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
医)系看「基礎看護技術Ⅰ」「基礎看護技術Ⅱ」 日看協)「看護形態機能学」

【参考図書・文献】
医)系看「基礎・臨床看護技術」

【科目】 ヘルスサービス5 (フィジカルアセスメント)	【時期】 1年次 後期 【単位 時間数】 1単位 30時間	【担当講師】 萩原 裕恵 専任教員	実務経験 8年
-----------------------------------	--	----------------------	------------

【概要】
長発達に応じたフィジカルアセスメントに必要な基礎知識を学び、フィジカルイグザミネーション技術を習得する。
身体機能別に系統立ててフィジカルアセスメントができる。

- 【到達目標】
1. フィジカルアセスメントの意義と目的が理解できる。 (知識・技能)
 2. 成長発達に応じたフィジカルイグザミネーション、バイタルサインの観察・測定、系統別アセスメントフィジカルアセスメントの実際がわかる。 (知識・技能)
 3. フィジカルイグザミネーション技術が習得できる。 (思考・判断・表現) (学びに向かう力)
 4. フィジカルアセスメント技術が習得できる。 (学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	ジェムヘル カンルスマ メントアセ スマス	1. ヘルスアセスメントとは 1) ヘルスアセスメントの意義と目的 2) フィジカルイグザミネーション 問診・視診・聴診・触診・打診 2. ヘルスアセスメントの実際 1) 全体を概観する 2) 健康版図取	100%	技術テスト 10% 筆記試験 90%
2	バイタル サインの 観察とア セスメン ト	2. バイタルサインの意義と目的 1. バイタルサインの観察とアセスメント 1) ホメオスタシス 2) 体温 ①発熱・解熱のプロセス ②体温測定の手順とその根拠 ③熱型パターン 3) 呼吸 ①呼吸の仕組み ②内呼吸・外呼吸 4) 脈拍 ①脈拍からわかること (血液量・血流状態・刺激伝導系) ②脈拍測定方法 ③脈原・徐脈・期外収縮 5) 血圧 ①血圧高低因子②血圧測定の手順 ③触診法④聴診法		
3	バイタル サインの 測定	バイタルサインの測定【演習】 1) 臥位・座位の対象のバイタルサインの測定を行う。		
4	サバ 測イ 定タ のル	1. バイタルサインの観察とアセスメント 1) 意識 ①JCS・GCS 2. 針刺 3. 系統別フィジカルアセスメントが必要とされる背景 4. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 1) 筋・骨格系のフィジカルアセスメントの目的・基礎知識 2) 筋・骨格系のフィジカルアセスメントの実際 自覚症状・他覚症状・視診・問診・触診・打診・聴診 関節可動域・関節の動き・MMT		
5	筋・ 骨格系	1. 呼吸器系のフィジカルアセスメント 1) 呼吸器系のフィジカルアセスメントの目的・しくみや動き 2) 呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際 自覚症状・他覚症状・視診・問診・聴診 (正常呼吸音・異常呼吸音)・触診・打診 呼吸音聴取の手技・正常呼吸音・異常呼吸音・副雑音		
6	呼吸 器系	1. 循環器系のフィジカルアセスメント 1) 循環器系のアセスメントの目的・しくみや動き 2) 循環器系のフィジカルアセスメントの実際 自覚症状・他覚症状・視診・問診・触診・打診・聴診・心周期・心音聴取手技・心雑音・心動比測定		
7	循環 器系	1. 腹部のフィジカルアセスメント 1) 腹部のフィジカルアセスメントの目的・基礎知識 2) 腹部のフィジカルアセスメントの実際 自覚症状・他覚症状・視診・問診・触診・打診・聴診・区分法・浅い触診・深い触診・ブルンベルグ徴候・腹水の確認・叩打痛		
8	腹部	バイタルサイン測定技術テスト【演習】		
9	技 術 テ ス	1. 呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメントの実際【演習】 1) 呼吸器系・循環器系の視診・触診・聴診 2) パルスオキシメーターで酸素飽和と温度測定 3) 正常呼吸音・異常呼吸音・副雑音・心音・異常心音 2. 腹部フィジカルアセスメントの実際 1) 腹部の視診・触診・聴診		
10	乳 房・ 腋	2. 乳房・腋窩のフィジカルアセスメント 1) 乳房・腋窩のフィジカルアセスメントの目的・基礎知識 2) 乳房・腋窩のフィジカルアセスメントの実際 乳房観察5領域・腋窩触診 乳房・乳頭・乳輪の触診・乳がん自己検診法		
11	神経 系・ 頭 部 と 感 覚	1. 神経系のフィジカルアセスメント 1) 神経系のフィジカルアセスメントの目的・基礎知識 2) 神経系のフィジカルアセスメントの実際 自覚症状・他覚症状・視診・問診・触診・打診・聴診 中枢神経と末梢神経・パレー徴候・表在感覚・深部感覚・複合感覚 ①小脳機能観察・ロンベルグ試験・つぎあし歩行試験・指鼻指試験・踵膝試験・回内・回外検査 ②反射・屈反射・表在反射 2. 頭頸部と感覚器系のフィジカルアセスメント 1) 頭頸部と感覚器系のフィジカルアセスメントの実際 自覚症状・他覚症状・視診・問診・触診・打診・聴診 脳神経・視力・視野・外眼筋運動・カパーアンカパーテスト・瞳孔反射・ウィスパーテスト・ウェーバーテスト・リンネテスト・口腔・咽 頭・舌玉検査の臨検		
12	乳 房・ 腋	1. 事例を用いて、対象に必要なフィジカルイグザミネーションを考え、実施する		
13	ま と め			

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
監) 永著「基礎看護技術1」 日看護「看護形態論学」 日看護「日常生活行動からみるヘルスアセスメント」
【参考図書・文献】
監) 永著「基礎・臨床看護技術」

【科目】 ヘルスサーピス6 (ヘルスアセスメント)	【時期】 2年次 後期 【単位 時間数】 1単位 15時間	【担当講師】 角野 雅春 専任教員	実務経験 18年
---------------------------------	--	----------------------	-------------

【概要】
看護は、対象である人の身体の状態だけでなく、心理的状态、その人を取り巻く家族や社会の状態にまで目を向ける必要がある。ヘルスアセスメントでは、紙上事例を用いて対象の健康状態を身体的、心理的、社会的な視点からの総合的なアセスメントの考え方、方法、およびプロセスを学ぶ。また、人を日常生活行動と心身のメカニズムとの関連を理解したうえで、看護形態機能学や生活行動の視点から身体、心理、社会的に統合された存在として理解する。

- 【到達目標】
1. ヘルスアセスメントの意義と目的を理解する。(知識・技能)
 2. 対象の事例に応じた症状別アセスメントができる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
 3. 対象を3側面で捉えることができる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
 4. ヘルスアセスメントによって得られた結果から看護の方向性を考えることができる。(学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	角野	7. 「息をする」のヘルスアセスメント ホープタウン住人⑬ 寺元勇作 (70歳代 COPD) <予習> ① 「息をする」を構成する体の機能 ② 「息をする」のアセスメントに関連する情報 <GW> ③ アセスメントの手順 ④ アセスメントの実際 ・日常生活動作時に呼吸苦がある対象の「息をする」を支援する。	100%	筆記試験 100%
2				
3		6. 「動く」のヘルスアセスメント ホープタウン住人⑤ 陳 文雄 (60歳代 脳梗塞) <予習> ① 「動く」を構成する体の機能 ② 「動く」のアセスメントに関連する情報 <GW> ③ アセスメントの手順 ④ アセスメントの実際 ・麻痺がある対象の「動く」を支援する。		
4				
5		3. 「食べる」のヘルスアセスメント ホープタウン住人⑤ 陳 文雄 (60歳代 脳梗塞) <予習> ① 「食べる」を構成する体の機能 ② 「食べる」のアセスメントに関連する情報 <GW> ③ アセスメントの手順 ④ アセスメントの実際 ・むせこみが増えている対象の「食べる」を支援する。 <発表> ⑤ ヘルスアセスメントから看護を考える		
6				
7		4. 「トイレに行く」のヘルスアセスメント ホープタウン住人④ 米田平次 (70歳代 大腿骨Fr) <予習> ① 「トイレに行く」を構成する体の機能 (排尿・排便) ② 「トイレに行く」のアセスメントに関連する情報 <GW> ③ アセスメントの手順 ④ アセスメントの実際 ・床上安静にある対象の「トイレに行く」を支援する。 <発表> ⑤ ヘルスアセスメントから看護を考える		
8*				

【講義に向けての課題・特記事項】

- ・ GW活動の課題には事前の準備をしっかりと、積極的に参加し、自己表現力を磨いて下さい。
- ・ 課題は講義に参加するためには必修です。
- ・ 専門用語は正確に理解しましょう。
- ・ 看護実践能力を獲得するためにリフレクションを大切にしましょう。

【テキスト】

日看協) 「ヘルスアセスメント」 「看護形態機能学」

【参考図書・文献】

医) 系看「基礎看護技術Ⅰ」「基礎看護技術Ⅱ」
学) 看護過程に沿った対象看護 病態生理と看護のポイント

【科目】 ヘルスサービス7 (症状アセスメントと看護)	【時期】 2年次 前期 【単位 時間数】 1単位 30時間	【担当講師】 田村留美子 専任教員	実務経験 20年
-----------------------------------	--	----------------------	-------------

【概要】

様々な症状を持つライフサイクルにある対象者を理解し、状態に応じて看護を提供する能力を養う。
臨床現場で実際に出会うことの多い症状や徴候を、シミュレータを用いてフィジカルアセスメントを体験し、リフレクションする。演習後、症状の定義、症状が起こるメカニズム、症状が持続、悪化することで生じる危険を理解し、症状に応じた看護の基本的な知識とその実際を学ぶ。

【到達目標】

- 各症状とその原因・誘因に関する情報がかかる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
- 原因・誘因がどのようなメカニズムでその症状を発生・悪化させているのかをアセスメントできる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
- 症状の持続・悪化がどのような二次的問題(成り行き)を生じる危険があるかアセスメントできる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
- アセスメントを基盤にして、対象への看護を考え看護の実際について理解することができる。(知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	田村	1. 症状アセスメントを学ぶ意義	100%	筆記試験100%
2		1. 「動く」「眠る」に関する症状アセスメント 1) 「動く」「眠る」のメカニズム 2) 「疼痛」「不眠」のメカニズム 3) 「疼痛」「不眠」のある対象への看護 4) 「貧血」のメカニズム 5) 「倦怠感」のメカニズム 6) 「貧血」「倦怠感」のある対象への看護 7) 褥瘡のメカニズム 8) 褥瘡のある対象への看護		
3				
4				
5				
6		1. 「食べる」に関する症状アセスメント 1) 代表的な症状と発症のメカニズム 2) 栄養・代謝の関するアセスメント 3) 栄養障害や代謝障害のある対象への看護		
7				
8		1. 「トイレに行く」: 排便をするに関する症状アセスメント 1) 代表的な症状と発症のメカニズム 2) 排便に関するアセスメント 3) 排便障害のある対象への看護 2. 「トイレに行く」: 排尿をするに関する症状アセスメント 1) 代表的な症状と発症のメカニズム 2) 排尿に関するアセスメント 3) 排尿障害のある対象への看護		
9				
10		1. 「息をする」に関する症状アセスメント 1) 代表的な症状と発症のメカニズム 2) 呼吸に関するアセスメント 3) 呼吸障害のある対象への看護		
11				
12				
13		1. 恒常性の維持に関連した症状と看護 1) 発熱 2) ショックと随伴症状 3) 意識障害と随伴症状		
14				
15 45分		1. まとめ		

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】

医) 系書「臨床看護総論」 日看協「看護形態機能学」

【参考図書・文献】

医) 「基礎・臨床看護技術」 学) 看護過程に沿った対象看護 病態生理と看護のポイント

【科目】	【時期】	【担当講師】	実務経験				
ヘルスサービス8 (診療の補助)	2年次 後期 【単位 時間数】 1単位 30時間	金子 裕子 専任教員 庵野 圭子 専任教員	20年 16年				
【概要】 診断・治療・処置に伴う基本的な知識・技術・態度を養う。また、演習を通して安全・安楽で確実な技術を習得する。							
【到達目標】 1. 診療過程に関わる看護の基本技術の方法や原理原則を、安全の視点から述べるができる。 (知識・技能) (思考・判断・表現) 2. 診療過程に関わる看護の基本技術を行う上で、対象に及ぼす身体的・心理的苦痛を理解し、安全・安楽に配慮した技術を習得できる。(知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)							
【授業計画・内容】							
回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法			
1 ※	金子	1. 診療に伴う看護技術とは	1. 診療過程に関わる看護の基本技術の位置づけ 2. 安全で安楽な技術を行う上での看護の役割と責務	金子 55% 庵野 45%	筆記試験 100%		
2		2. 与薬における看護技術	1. 与薬における看護の役割と正しい与薬と管理 2. 薬物作用と吸収経路 3. 与薬の方法目的と援助の実際 ①経口 ②点眼 ③点鼻 ④経皮 ⑤直腸				
3		3. 注射方法の適応と援助の実際	1. 注射の方法と適応 1) 皮下、皮内、筋肉、静脈内(点滴静脈内と中心静脈内) 2) 注射器・注射針の取り扱い 2. 輸液管理 1) クレンメを用いた自然滴下方法 2) 輸液ポンプ・シリンジポンプによる輸液管理 3) 三方活栓のしくみ 4) 滴下の計算 5) 持続点滴中の観察 3. 輸血管理 1) 輸液剤の種類と目的と取り扱い 2) 援助の実際				
4						4. 正しい技術の習得	演習 1. 筋肉注射 2. 静脈内注射 3. 輸液ポンプ・シリンジポンプの基本操作 4. 持続点滴中の観察 5. 誤薬、患者誤認予防(6R)
5							
6							
7	症状・生体機能管理技術	1. 症状・生体機能管理技術の目的と看護の役割 1) 検体検査	1. 検体検査 1) 血液検査の目的と援助の実際 ①静脈血採血 ②動脈血採血 2) 尿検査の目的と援助の実際 3) 便検査の目的と援助の実際 4) 喀痰検査の目的と援助の実際				
8		2. 正しい技術の習得	演習 1. 静脈採血 2. 簡易血糖測定				
9		10	1. 診察・検査・処置の介助の目的と看護の役割			1. 生体検査 1) X線撮影 2) 内視鏡検査 3) 穿刺の介助 ①胸腔 ②腹腔	
11	1. 創傷管理技術						1. 創傷管理技術 1) 創傷治癒過程と処置 2) 創傷処置 2. 携創予防
12							
13	2. 正しい技術の習得	演習 1. 酸素ポンプの操作 2. 酸素吸入療法中の患者の看護(フェイスマスク・鼻カニューレ) 3. 吸入(超音波ネブライザー) 4. 一時的吸引(口腔、鼻腔) 5. 包帯法：環行帯・らせん帯・表帯・折転帯 6. 三角布					
14							
15	15						
【看護に向けての課題・特記事項】							
【テキスト】 医)系書「基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ」 医)「基礎・臨床看護技術」 【参考図書・文献】 医)「基礎・臨床看護技術」 医)「臨床看護総論」							

【科目】 ヘルスサービス9 (看護過程の展開)	【時期】 2年次 後期 【単位 時間数】 1単位 30時間	【担当講師】 萩原 裕憲 専任教員	実務経験 8年
-------------------------------	--	----------------------	------------

【概要】
看護過程は、対象の個別性に合わせた看護を系統的・科学的に実施するための方法です。看護過程を適用することで、看護の対象が身体・精神・社会・スピリチュアル側面を持つ統合体であることを理解し、人間関係を基盤に看護ケアを実施することができる。ここでは、看護過程の展開に関する基礎的な知識・考え方を学び、論理的・批判的思考、判断力に基づいた看護実践のための基本を学ぶ。以上に事例展開を行い、個人ワークとグループワークによって看護過程による思考方法を理解する。

- 【到達目標】
1. 対象の状態に応じた看護展開に關心をもち、課題に主体的に取り組める。(学びに向かう力)
 2. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意味が理解できる。(知識・技能)
 3. 既習の知識を統合し思考を深め、適切に判断し表現できる。(思考・判断・表現)
 4. 事例をもとに、アセスメント、看護問題の明確化、看護計画、実施、評価といった看護過程の各段階について、基本的な考え方や実践が理解できる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
 5. 問題解決過程やクリティカルシンキングをもとに、情報の分析、論理的判断など、看護過程の基盤となる考え方が習得できる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
 6. 看護記録の目的と留意点、構成にわかる。(知識・技能)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	萩原	臨床判断とは 1. 臨床判断能力 1) 思考の訓練 ①臨床判断 ②臨床判断を体験する コンテキスト/手順・思考の訓練1 初期把握/観察 患者の観察2	100%	①筆記試験 ②課題提出物 ③発表・演習の参加態度を総合し、評価する
2		看護の定義 看護過程とは 1) 看護における対象のとらえ方 人間の反応、ライフプロセス・健康状態 2) 看護師独自の役割 4. 看護過程とは 1) 看護過程の定義 2) 看護過程の構成要素・プロセス (6つのステップ) 5. 看護過程の意義となる考え方 ①問題解決過程 ②クリティカルシンキング ③リフレクション		
3		アセスメント 6. 看護過程のプロセス①: アセスメント (情報収集と整理) 1) アセスメント ①アセスメントとは ②看護上の問題と看護問題 ③看護上の問題の種類 ④アセスメントの種類・時期 2) アセスメントの種類 ①アセスメントの枠組みの構成・使い方 ②ゴードンの11の機能的健康パターン 11の機能的健康パターンの概要・見方 3) 情報収集 ①情報収集とは 4) 情報収集の方法 ①情報の種類 (客観的情報、主観的情報) ②情報源 ③情報収集の手段 ④情報収集のタイミング ⑤情報の正確性の確認 (確認方法・正確性を上げる要因)		
4		アセスメント 演習 7. 看護過程のプロセス①: アセスメント (情報収集と整理) 演習		
5		アセスメント 8. 看護過程のプロセス②: アセスメント (人間の反応の解釈・分析・推論・判断) 1) 人間の反応の解釈の流れ 2) 解釈・分析・推論・判断とは 3) 情報の意味づけ ①アセスメントの枠組み (11の機能的健康パターン) を活用した情報の意味づけ ②専門的知識を活用した情報の意味づけ ③個別性に基づく情報の意味づけ 4) 人間の反応の解釈 5) 人間の反応の分析 (原因・誘因・強み・成り行き) 6) 人間の反応の判断		
6		アセスメント 演習 9. 看護過程のプロセス②: アセスメント (人間の反応の解釈・分析・推論・判断) 演習		
7		アセスメント 10. 看護過程のプロセス③: アセスメント (人間の反応の関連性)・看護問題 (看護診断、看護問題を含む看護上の問題) 1) 人間の反応の関連性の把握 ①関連図 ②関連図の作成方法 2) 看護問題を含む看護上の問題の種類 ①実在型問題 ②リスク型問題 ③ヘルスプロモーション型問題 ④共同問題 3) 問題介入の明確化 4) 看護診断 ①NANDA-I看護診断 5) 看護問題 (看護診断) の表記方法 6) 看護問題 (看護診断) の優先順位 7) 看護問題 (看護診断) のリスク		
8		アセスメント 11. 看護過程のプロセス③: アセスメント (人間の反応の関連性)・看護問題 (看護診断、看護問題を含む看護上の問題) 演習		
9		看護計画 12. 看護過程のプロセス④: 看護計画 (看護目標の設定、看護計画立案) 1) 看護目標 (目標・成果・成果指標) 2) 看護目標 (目標・成果・成果指標) 設定の留意点 RUBADの法則 3) 看護目標 (目標・成果・成果指標) の記述 成果指標の要素 (主語、行動、状態、条件、達成基準、達成期間) 4) 共同問題についての目標設定 5) 看護計画の立案 6) 看護計画の表記 課題計画 (O-P)・直接ケア計画 (I-P)・教育計画 (E-P) 7) 看護計画立案時の留意点		
10		看護計画 13. 看護過程のプロセス④: 看護計画 (看護目標の設定、看護計画立案) 演習		
11		看護計画 14. 看護過程のプロセス⑤: 看護計画の実施、評価・修正 1) 看護計画立案の全体像 (実施前・実施中・実施後) 2) 看護計画立案における留意点 3) 実施前の確認と判断 4) 看護計画の修正、優先順位の見直し 5) 看護計画の実施 6) 実施後の記録・報告 7) 評価・修正 ①看護目標 (目標・成果・成果指標) の達成度判定 ②達成度に影響を与えた要因の特定 ③看護計画の修正の判断・実施計画の修正の判断		
12		看護計画 15. 看護過程のプロセス⑤: 看護計画の実施、評価・修正 演習		
13		看護計画 16. 看護過程のプロセス⑥: 評価・修正 演習		
14		看護記録 17. 看護記録 1) 法的位置づけ・概要 2) 看護記録の目的・機能 3) 看護記録の電子化 4) 看護記録の記述・管理 ①記録標準 ②看護記録の訂正 ③個人情報管理 ④守秘義務 5) 看護記録の構成 ①基礎情報 ②看護計画 ③経過記録 ④看護サマリー		

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】
・GW活動の課題には事前の準備をしっかりと、積極的に参加し、自己表現力を磨いて下さい。
・課題は講義に参加するためには必修です。

【テキスト】
監) 永重「基礎看護技術I」 照林社「看護過程展開ガイド」

【参考図書・文献】
白根信「ヘルスアセスメント」 日経出版「看護形態論」 学「看護過程に沿った対症看護」
又) 「ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント」
メディックメディア 看護が見えるvol.4 看護過程の展開

【科目】 ヘルスサービス10 看護過程展開演習	【時期】 2年次 後期 【単位 時間数】 1単位 15時間	【担当講師】 田村留美子 専任教員	実務経験 20年
-------------------------------	--	----------------------	-------------

【概要】
シミュレーション演習を用いて、対象に応じた援助を提供するための看護を展開する力を身につける。
既習の知識、技術を統合し倫理的判断のもとに援助する力を養う。

- 【到達目標】
1. 看護に興味・関心を持ち、課題に主体的に取り組むことができる。(学びに向かう力)
 2. 対象から得られた情報を整理し、系統立てて分析・解釈できる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
 3. アセスメントを統合させ、対象の看護上の問題点が抽出できる。(思考・判断・表現)
 4. 根拠に基づき、対象の個別性に配慮した看護計画が立案できる。(思考・判断・表現)
 5. 対象の変化に気づくことができる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
 6. 最適な看護を考え、実施できる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
 7. 実施した援助の評価ができる。(思考・判断・表現)

【授業計画・内容】				評価割合	評価方法
回数	担当講師	主な内容			
1	初期把握	1. 対象を観察する根拠や優先順位を考えながら、必要な情報を収集することができる。	シミュレーション演習① ・事例を使用し、自己学習した内容をもとに、観察やコミュニケーションを通して情報を収集する。 ・患者の状況設定を詳細に行い、学生が観察を通して必要な情報が収集できるようにする。 ・得られた情報は病態解釈、ゴードンの機能的健康パターンにそって整理する。 ・演習後は臨床判断用紙を用いて振り返りを行う。 ・日々変化する対象の状況を継続して観察し(約1週間)対象が出る経過を理解するとともに、対象の統合的な理解を深めていく。 授業前自己学習および自己学習	100%	課題点100%
2	看護上の問題点の問題	2. 各パターンで導き出されたアセスメントを関連図で統合させ、対象の看護上の問題点を導き出す。	・自己学習した内容をグループで共有し、グループとしての考えをまとめながら対象の問題点を確定し、プレゼンテーションする。		
3	看護計画立案	3. 対象の看護目標を設定し、目標到達に向けた看護計画を立案することができる。	・対象の問題点から看護目標を設定し、目標達成のための看護を計画する (O-P, T-P, E-P)。		
4	看護の実践	4. 対象の個別性に配慮した、看護を実践できる	・グループで立案した看護を実践する。・対象に必要な看護を実践するための観察の視点・安全・安楽・自立度声かけやプライバシーの配慮について学び共有する。【演習】		
5	看護計画再考	5. プレゼンテーション 対象の個別性に配慮した、目標到達に向けた看護計画を発表する	・各自で実践の評価を行い、評価した内容をグループで共有、次回の演習実践に向けて計画の追加・修正を行うことができる。		
6	計画した看護の実践と評価	6. 対象を観察し、得られた気づきを分析して、立案した看護計画が実践可能か判断し、必要な修正や変更を加えながら、最適な看護を考え実践し、評価することができる。	シミュレーション演習② ・対象を観察し、得られた情報を解釈して対象の現状を把握し、計画した看護が実践可能か判断する。 ・再度情報をアセスメントし、看護計画の追加・修正を行って、最適な看護を実践するための計画を立案する。 ・修正された看護計画を実践し、評価する。目標達成状況とそれに影響を及ぼした要因の分析、また省察(リフレクション)を記録し、思考を整理して再度看護計画の修正を行う。		
7					
8	まとめ	7. 対象に応じた看護実践について凝縮PFを作成する。全体を俯瞰し、身についた力やスキルを確認し、次に行かせるものにする。	・対象に応じた看護についてまとめ、凝縮PFをグループで共有する。 ・学習成果物をPFへ再構築する。		

※筆記試験 1H

- 【課題に向けての課題・特記事項】
- ・GW活動の課題には事前の準備をしっかりと、積極的に参加し、自己表現力を磨いて下さい。
 - ・課題は講義に参加するためには必修です。
 - ・看護実践能力を獲得するためにリフレクションを大切にしましょう。

【テキスト】
講師準備
区)基礎看護技術 I 照林社) 看護過程展開ガイド 学研) 看護過程に沿った対症看護

【参考図書・文献】
学研) 看護過程の展開

【科目】 看護人間工学	【時期】 1年次 前期 【単位 時間数】 1単位 15時間	【担当講師】 (調整中)
----------------	--	-----------------

【概要】
人間を中心に、ヒトとモノの関係全てを科学する。人間にとってより快適なやさしい環境や生活者にとって使いやすさの科学を学習する。特に、看護に関係の深い項目について学習し、医療を取り巻く状況と関連付けて理解する。

【到達目標】

1. 人間工学と看護動作、医療機器、用具との関連性について理解する。
(知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)
2. 看護者として患者を介助する場合の安全で負担の少ない姿勢・動作理論と技術を習得する。
(知識・技能) (学びに向かう力)
3. 安全で使用しやすい機器、道具、用具のあり方を理解する。
(知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1		1. 講義の概要：人間工学とは (教科書P1～31)	100%	筆記試験 100%
2		2. 人間工学の構造と看護姿勢、看護動作における基礎力学 (教科書P32～82)		
3		3. ボディメカニクスを理解するための力学 (教科書P83～107)		
4		4. ボディメカニクスの応用①：患者と看護者の双方にとって安全で効率的な介助法を学ぶ (ポジショニング、ベッド上肢位変換、起き上がり) (教科書P83～107、および参考図書)		
5		5. ボディメカニクスの応用②：患者と看護者の双方にとって安全で効率的な介助法を学ぶ (立ち上がり、トランスファー、平地歩行、階段昇降)		
6		6. 看護の安全と人間工学 (教科書P108～134)		
7		7. 身近な人間工学の応用、看護人間工学のまとめ (教科書P135～153)		

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

第3、4、5回は実技をおこなうため、トレーニングウェア等の実技に適した服装で実習室に集合してください。

【テキスト】

サイオ出版)「看護の環境と人間工学」

【参考図書・文献】

東京電機大学出版局)「イラストで学ぶ看護人間工学」 金原出版)「ベッドサイドからはじめるやさしい介助技術」

【科目】 人間関係技術	【時期】 2年次 前期 【単位 時間数】 1単位 15時間	【担当講師】 水方 智子 日本看護学校協議会 会長	実務経験 6年
--------------------	--	---------------------------------	----------------

【概要】
人間関係の基盤となるコミュニケーション技術の実践方法を学ぶ。
対人関係論の基礎を学び、自己理解・他者理解を通して、コミュニケーション能力の向上をはかる。

【到達目標】

1. カウンセリングの理論や実践を通し、人間関係の基盤となるコミュニケーション能力の向上をはかる。
(知識・技能) (思考・判断・表現)
2. 治療的コミュニケーション技術の実際について学ぶ。(学びに向かう力) (思考・判断・表現) (知識・技能)
3. 医療・看護におけるコミュニケーションの必要性を理解し、意欲的に学習に取り組むことが出来る。
(学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容		評価割合	評価方法	
1	水方	1. 看護と認識論	1) 認識とは、看護と認識論の関係	100%	毎回のレポートの提出状況と終講レポートで100%	
2			1) コミュニケーションの原基形態 2) 関係発展に大切なこと			
3		2. 患者-看護師関係の発展とは	1) 相手の立場に立つコツ			
4			1) 相手とさらに関係性を発展させるコツ			
5		治療的(援助的)コミュニケーション	3. カウンセリング理論とは			1) カウンセリング理論と技法 ・ロジャーズ
6			4. プロセスレコードの活用			1) 認識の交流により相手との関係を発展させよう
7						1) 自分の実践の再構成をしよう

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

関連科目

- ・コミュニケーション能力を向上するために日常の中での自分の認識を鍛えるため、毎回の講義の中でレポート提出を求める。
- ・シラバス通りに進まない場合もある。

【テキスト】

ライフサポート社「対人コミュニケーション入門」

【参考図書・文献】

医)系看「基礎看護学Ⅰ」 医)系看「人間関係論」

【科目】 地域の歴史と文化	【時期】 1年次 後期 【単位 時間数】 1単位 15時間	【担当講師】 浅井 尚希	実務経験 (無し)
------------------	--	-----------------	--------------

【概要】
住み慣れた地域の歴史と文化について、基礎知識をもち、理解を深め、自ら探究心をもって地域の歴史文化を考える姿勢を身につけることを目標とする。

【到達目標】

1. 地域を歩き、地域を観察し、地域の人や歴史と出会って、自らの手で地域の姿を把握することができる。
(知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)
2. 地域における様々な問題に関心を持ち、課題をともに担う態度を身につける。(学びに向かう力)
3. フィールドワークによって、具体的な地域社会の歴史と文化などを深く理解することができる。
(知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	浅井	教授内容 (教育要項) 1、なぜ地域の歴史と文化が看護師にとって必要か考える 2、地域包括ケア	100%	筆記試験 40% レポート 30% プレゼンテーション 30% (ルーブリックあり)
2		1、事前学習『区の歴史と文化』についてグループワーク 2、『〇〇の区は〇〇が魅力のまち』と仮説をたて、その仮説検証に向けた、フィールドワーク計画作成		
3		1、フィールドワーク		
4		1、振り返り、発表準備 (資料作成)、グループワーク		
5				
6		1、プレゼン発表		
7		1、本講義による気づきを通して、文化的背景の理解を深め、多様性の尊重について考える 2、グループワーク		

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
講師準備

【参考図書・文献】

【科目】 比較文化論	【時期】 1年次 前期 【単位 時間数】 1単位 15時間	【担当講師】 金本 伊津子 桃山学院大学 経営学部経営学科 教授 実務経験 (無し)
--------------------------	--	---

【概要】
 異なった文化を偏見なくとらえ、理解する基礎を養う。
 国際化が進み、日本国内に居ても日本以外の文化に接する機会は少なくない。
 自己の文化を客観的にとらえ、異なった文化を理解することを目標とする。

- 【到達目標】**
1. 文化人類学の基本概念である文化について理解できる。 (知識・理解) (思考・判断・表現)
 2. 文化人類学の考え方と視点を理解する。 (知識・理解) (思考・判断・表現)
 3. 日本を含め世界の様々な社会が独自の文化を持っていることを理解する。 (知識・理解) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)
 4. 人類の多様な生活様式について認識を拓げる。 (思考・判断・表現) (学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	金本	1. 世界・国内移民の動向 人間と文化について	100%	筆記試験 100%
2		2. 異文化理解の基礎知識 質的研修とエスノグラフィー		
3		3. 文化とは何か ※ 自宅学習「あなたにとって家族とは」		
4		4. 人間と文化 個人、家族、家族を超えたつながり		
5		5. 文化と文化ー日本文化と他国の文化ー 人生と通過儀礼 宗教と世界観		
6		6. 家族と文化		
7		7. 死生観と文化 健康と医療 いのちと文化		

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】

医)系看「文化人類学」

【参考図書・文献】

【科目】 健康と生活・社会	【時期】 1年次 前期 【単位 時間数】 1単位 15時間	【担当講師】 富田 久子	実務経験 22年
------------------	--	-----------------	-------------

【概要】
健康や健康障害が人々の生活にどのように影響するのか、あるいは生活の破綻が健康にどう関連しているのかを考える。
そのうえで病気や障害をもつ人々の生活を支えることの意味について考え、学ぶ。
次に学ぶ公衆衛生の内容や保健につながる内容とする

- 【到達目標】
1. 人々を取り巻く環境、健康、生活について考察することができる。(知識・理解) (思考・判断・表現)
 2. 人々を取り巻く環境、健康、生活の関連を理解することができる。(知識・理解) (思考・判断・表現)
 3. 人々の健康な生活を支援する看護の役割について理解することができる。(学びに向かう力)

【授業計画・内容】				
回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	富田	授業内容(教育要綱) 1、健康のとらえ方、健康の定義 2、プレスローの七つの健康習慣 3、社会的な健康 4、言葉のとらえ方を理解する	100%	筆記試験 100%
2		1、ヘルスプロモーション 2、行動科学の理論 3、地域と社会		
3		1、「健康的な生活習慣とは？」グループワーク 2、健康的な生活習慣についてのグループワーク発表		
4		1、個人の生活の理解 2、環境と健康の関連 3、家族に関することについて 1) ジェノグラム、エコマップの書き方 2) ケースの対応		
5		3) ライフサイクル、ライフコース、ライフスタイル 4) 家族の役割について		
6		1、対象者理解① 1) 障がい者、ICFの考え方 2、対象者理解② 2) 発達障がい、対処方法など		
7		1、アルコールについて セルフヘルプグループについて(断酒会) 2、たばこについて 3、疾患との関連について		
8		1、まとめ プレスロー健康習慣を中心に、健康に影響のあるものを考える。		

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】

ナ)「健康と社会・生活」

【参考図書・文献】

【科目】 地域包括ケア 1	【時期】 1 年次 後期	【担当講師】	実務経験
	【単位 時間数】 1 単位 20 時間	村中 維佐子 サンガーデン府中援護長 中村 ゆかり 専任教員	39年 38年

【概要】

日本は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行していることから重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステム構築の実現にむけた取り組みが展開されています。この科目では、地域包括ケアシステムの意義や概念について学び、さらに、人々の暮らしとは何かを知り、地域の様々な場で行われる人々の生活について理解を深めていきます。また地域のもつ課題やニーズを分析しながら、地域で生活する人々に必要な支援とは何かを考えていきます。

【到達目標】

1. 地域包括ケアシステムが必要とされる社会背景および地域包括ケアシステムの基礎的知識を理解する。(知識・理解)
2. 地域包括ケアシステムの基盤となる「住まい」について理解を深め、地域の多様な住まいで暮らす人々に興味をもち、主体的に学習をすすめることができる。(思考・判断・表現) (学びに向かう力)
3. 地域で生活する人の暮らしを理解し、環境が生活に与える影響を考えることができる。(知識・理解) (思考・判断・表現)
4. 地域の課題やニーズを分析し、住み慣れた地域でその人らしい生活を継続させていくために必要な支援を考えることができる。(知識・理解) (思考・判断・表現)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	村中	1、地域包括ケアと社会背景 教授内容(教育要綱) 1、地域包括ケアの政策の変遷 ①人口構造の変化と医療政策の動向 2、地域・在宅看護を支える概念 ①地域医療構想 ②地域包括ケアシステム ③自助・互助・共助・公助	村中 50% 中村 50%	筆記試験 50% レポート 50%
2		1、看護の対象 2、地域で暮らすということ		
3		1、地域での生活を支える主な法・制度・施策 2、介護施設の概要		
4		1、地域での療養の場と看護		
5				
6	中村	1、認知症高齢者が地域で暮らすための支援 1、認知症サポーター研修		
7				
8		1、地域の課題やニーズを考える 1、暮らしと地域を理解するための考え方 ①地域の課題とニーズ ②システム思考		
9		1、社会集団の全体像を捉える視点を知る 1、地域の分析とシステムの理解 (コミュニティパートナーモデルを用いて)		
10				

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】

照) 基礎からわかる 地域・在宅看護論

【参考図書・文献】

医) 系看「在宅看護論」 医) 系看「公衆衛生学」 メ) 新体系 看護学全書「地域・在宅看護論」
ミネルヴァ書房) 「よくわかる地域包括ケア」 メ) 「地域包括ケア」サクセスガイド

【科目】 社会保障・社会福祉	【時期】 2 年次 後期	【担当講師】	実務年数
	【単位 時間数】 1 単位 30時間	浅井 明 学校法人ルンビニ学園理事長 高木 聡 介護老人保健施設ベルアモール 相談課 小関 晋奈 ベルピアノ病院 医療福祉相談室 渡邊 祐介 特別養護老人ホーム ベルアルト 相談課 高田谷 和幸 介護老人保健施設 ベルアルト相談課	無し 20年 17年 17年 12年

【概要】生活者が健康な生活を確保する為、わが国の医療の現状や保健・福祉の連携から現状の課題を理解する。医療の対象を、病いを体験している人、病いをもちながら生活している人として捉え、生活者が必要としている支援について理解する。

- 【到達目標】
1. 生活者が健康な生活を確保するために必要な保健・医療・福祉を理解する。(知識・技能) (思考・判断・表現)
 2. 社会保障制度の意義と目的、内容と仕組みについて理解する。(知識・技能)
 3. 保健医療福祉制度のしくみとその活用方法および看護の役割について理解する
(知識・技能) (思考・判断・表現) (学習に向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	社会 保 障 制 度 と 社 会 福 祉	1、社会保障制度と社会福祉 1) 社会保障制度 (1) 社会保障の概念 (2) 社会保障の目的 (3) 社会保障の機能と体系 (4) 社会保障の内容	浅井 50%	筆記試験 100%
2		2) 社会福祉の法制度 (1) 法制度の歴史 (2) 社会福祉サービスの内容とサービス提供のしくみ (3) 社会福祉法と福祉6法		
3		1、現代社会の変化 1) 人口の変化 2) 地域社会の変化 3) 家族・老人の変化 4) 経済・雇用状況変化 2、社会保障・社会福祉の動向		
4		1、医療保障 1) 医療保障制度の構造と体系 2) 健康保険と国民健康保険 3) 高齢者医療制度 4) 公費負担医療		
5		1、介護保障 1) 介護保障制度の概要 2) 介護保障制度の課題と展望		
6		1、所得保障 1) 所得保障のしくみ 2) 年金保険制度 3) 社会手当 ①児童手当 ②児童扶養手当・特別児童扶養手当 ③障害者手当 4) 労働保険制度		
7		1、公的扶助 1) 生活保護制度のしくみ 2) 低所得者対策		
8		1、社会福祉の分野とサービス 1) 高齢者福祉 2) 障害者福祉 3) 児童家庭福祉 4) 少子化対策と子育て支援 5) 児童虐待対策 6) 子どもの人権と貧困対策		
9	社会 福 祉 実 践 と 医 療 ・ 看 護	1、社会福祉援助とは 1) 援助とは 2) 社会福祉援助の法的規定 3) 生活（「ライフ」）の三側面 4) 社会福祉援助技術の分類	高木 15% 小関 15% 渡邊 15% 高田谷 5%	
10		1、個別援助技術 ケースワーク（生活支援の展開）		
11		1、集団援助技術 グループワーク（集団援助の展開）		
12		1、間接援助技術と関連援助技術 1) 間接援助技術 2) 関連援助技術 2、社会福祉援助の検討課題 1) 倫理上のディレンマ 2) エンパワメント・アドボカシー・セルフヘルプグループ		
13		1、社会福祉実践と医療・看護との連携 1) 医療ソーシャルワーカーとは 2) 医療・看護・福祉の連携の実態		
14		1、連携の重要性、連携の場面とその方法 1) 多職種連携とは 2) 医療における連携 3) 地域包括ケアシステムにおける他機関との連携		

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
医)系著「社会保障・社会福祉」 厚生労働協会「国民の福祉と介護の動向」

【参考図書・文献】

【科目】 関係法規 1	【時期】 2 年次 前期 【単位 時間数】 1 単位 15時間	【担当講師】 井出 真也 龍谷大学 非常勤講師	実務経験 (無し)
----------------	--	----------------------------	--------------

【概要】

人間の生活と法律との関係や、法の理念・概念をはじめとした法律の基礎を学ぶ。看護に必要な法令を学び、看護師としての法的責任を自覚するとともに、対象への活用について理解する。

【到達目標】

1. 法の概念及び関係法規を学ぶ意義について理解する。(知識・技能) (思考・判断・表現)
2. 保健師助産師看護師法について理解する。(知識・技能)
3. 保健と福祉に関する法規の基礎的事項について理解する。(知識・技能)
4. 関連職種の法規の基礎的事項について理解する。(知識・技能)
5. 看護に関連深い法律について理解するとともに、看護活動と法との関連を理解する。
(知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	井出	1、法の歴史	100%	筆記試験 100%
2		1. 法の概念 2. 衛生法 3. 厚生労働行政のしくみ		
3		1、看護法 1) 保健師助産師看護師法 2) 看護師等の人材確保の促進に関する法律		
4		1、医事法 1) 医療法 2) 医療関係資格法 (1) 医師法 (2) 歯科医師法 (3) 薬剤師法 (4) 医療関係資格法 (5) 保健衛生福祉資格法		
5		3) 医療を支える法 (1) 医療・介護の提供体制に関する法 (2) 移植医療に関する法 (3) 地域振興における看護の役割に関する法 4) 人の死に関する法		
6		1、保健衛生法 1) 共通保健法 (1) 地域保険法 (2) 健康増進法 2、分野別保健法 1) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 2) 母子保健法 3) 母体保護法 4) 学校保健安全表 5) 個別対策法		
7		3、感染症に関する法 1) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 2) 新型インフルエンザ等対策特別措置法 3) 予防接種法 4) 検疫法		
8		1、薬務法 1) 薬事一般に関する法律 2) 人などの組織を用いた医療関連法 3) 薬害被害者の救済など 3) 麻薬・毒物などの法		

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】

医)系看「看護関係法令」

【参考図書・文献】

【科目】 社会学	【時期】 1年次 前期 【単位 時間数】 1単位 30時間	【担当講師】 藤田 悟 立命館大学 非常勤講師	実務経験 (無し)
-----------------	--	----------------------------	------------------

【概要】

社会とは何か、その構造や機能について学び、社会的存在としての人間を理解する。後半の社会調査やキャリア支援の土台となるようにフィールドワークを体験する。

【到達目標】

1. 社会とは何か、その構造や機能について学び、社会的存在としての人間を理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現)
2. フィールドワークを通してインタビュアーとの相互行為を通して社会や文化の変動を読み解くライフストーリーの技法を理解することができる。(思考・判断・表現)(学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	藤田	1. 社会学とは ガイダンス 社会学的視点を学ぶ 自分マップの作成	100%	筆記試験 50% レポート 50%
2		2. 社会学の考え方 家族とは何か ライフストーリーとは何か		
3				
4		3. 社会の様々な形と定義 調査計画書作成Ⅰ 調査計画書作成Ⅱ		
5				
6		4. 社会的存在としての人間 現代日本社会の課題Ⅰ—高齢化 貧困とは何かⅠ		
7				
8				
9		5. 地域における人間関係・職場における人間関係 現代日本社会の課題Ⅰ—貧困 貧困とは何かⅡ 自殺問題に関する基礎知識		
10				
11				
12		6. 現代の社会システム 貧困とは何かⅢ 自殺危機への対応を学ぶⅠ		
13				
14		7. フィールドワーク 自殺危機への対応を学ぶⅡ		
15 45分				

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】

せりか書房)「インタビューの社会学」

【参考図書・文献】

【科目】 統計学	【時期】 1年次 後期 【単位 時間数】 1単位 30時間	【担当講師】 藤間 真 桃山学院大学 経済学部経済学科 教授 実務経験 (無し)
-------------------------------	--	--

【概要】

基本的な統計手法・考え方について、得られた標本データを解析・整理・要約するための記述統計学、その解析結果から母集団における状況を推測するための推測統計学について、その基礎的内容の具体例をもとに学ぶ。

【到達目標】

1. 統計学の役割と公的データの活用ができる(知識・技能) (思考・判断・表現)
2. 記述的統計解析スキルが身に付く (知識・技能) (思考・判断・表現)
3. 推測的統計解析スキルが身に付く (知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)
4. 推測統計学の考え方と検定の考え方を理解し、データを分析できるようになる (知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	藤間	統計とは	100%	筆記試験 100%
2		データの種類の		
3		確率		
4		基本統計量(代表値、分散、標準偏差)		
5		データ分布について		
6		母集団と標本抽出		
7		統計的仮説検定		
8		t検定		
9		一元配置分散分析		
10		クロス集計法とx二乗検定		
11		ノンパラメトリック検定		
12		相関係数		
13		エクセル実習		
14				
15 45分		総まとめ		

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

* 適宜PC実習を交える

【テキスト】

技術評論社)「統計学がわかる」

【参考図書・文献】

技術評論社)「統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】」 医)系看「統計学」「看護情報学」

【科目】 公衆衛生学	【時期】 2年次 後期 【単位 時間数】 1単位 30時間	【担当講師】 富田 久子	実務経験 22年
-------------------	--	---------------------	-----------------

【概要】
公衆衛生看護の理念、目的、対象、活動方法の特徴について学ぶ。社会の動向を捉え、社会の変化と健康の関連を学び、健康問題を解決するための社会資源や仕組みを学ぶ。個人、家族、集団および地域全体の生活様式を理解し、発達段階や健康課題に応じた保健活動を学ぶ。地域における健康危機管理体制について学ぶ。

- 【到達目標】
1. 公衆衛生の基本的理念を学ぶ。(知識・技能)(思考・判断・表現)
 2. 地域保健・環境保健について理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現)
 3. 医療の動向を知り、保健活動について理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	富田	1. 公衆衛生看護とは(理念、目的、意義、歴史)	100%	筆記試験 100%
2		2. 公衆衛生看護の対象と活動の場		
3		3. 人々を取り巻く社会情勢の変化		
4		4. 学校保健		
5		6. 産業保健		
6		6. 健康に影響する生活環境と社会的要因		
7		7. 健康を守るための社会資源、健康と社会格差		
8		8. 公衆衛生看護管理		
9		9. 成人保健活動:成人期の健康づくりと生活習慣病予防		
10		10. 精神保健活動:メンタルヘルス		
11		11. 高齢者保健活動:高齢期の健康づくりと介護予防、リスクを抱える高齢者への支援		
12		12. 難病・障害者への保健活動:難病・障害をもつ者への支援		
13		13. 感染症保健活動:感染症対策と感染患者への支援		
14		14. 母子保健活動:リスクを抱える母子への支援		
15 45分		15. 地域での災害発生時の危機管理まとめ		

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
医)系着「公衆衛生」(厚生労働協会)「国民衛生の動向」

【参考図書・文献】

【科目】	【時期】	【担当講師】	実務経験
人間関係論	1年次 後期 【単位 時間数】 1単位 15時間	溝口 由里子 ペルランド総合病院 臨床心理室 室長補佐	38年

【概要】
臨床心理学の主要理論をとおして、方法、対象、適用領域、および社会的意義についての基礎知識、臨床心理学の人間理解の基礎的方法を理解する。
臨床心理学に基づいた医療現場におけるカウンセリングの実際を理解する。
看護における臨床心理学的なアプローチのあり方を考察する。

- 【到達目標】
1. 自己と他者について関心を持ち、他者理解に適した態度について理解できる。(知識・技能)(思考・判断・表現)
 2. 医療現場における様々な人間関係について理解し、カウンセリングの重要性について理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現)
 3. 看護者として必要なカウンセリングの基礎的技法を身につけることができる。(知識・技能)(学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	溝口	1. 人間存在と人間関係 2. 社会的相互作用と社会的役割	100%	筆記試験 100%
2		1. コミュニケーション		
3		1. 人間関係の向上のスキル		
4		社会心理学からみる人間行動 人間描写(ワーク)、コミュニケーションの過程、非言語的コミュニケーション		
5		1. 保険医療チームの人間関係 2. 闘病生活を支える人間関係 3. 終末期の患者と家族を支える人間関係		
6		1. カウンセリングの基本と技術		
7		2. カウンセリングの実際		

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
医)系看「人間関係論」

【参考図書・文献】

【科目】 家族看護学	【時期】 2年次 前期 【単位 時間数】 1単位 15時間	【担当講師】 井上 敦子 大阪公立大学 看護学部 看護学科 /大学院看護研究科 実践看護科学領域 家族看護学分野	実務経験 17年
--------------------------	--	---	-------------

【概要】
 看護の対象としての家族を理解し、家族が本来有する機能と家族の健康に関するケア機能を高める援助を学ぶ。また、家生じる健康問題、それに関連した要因への看護援助について家族看護の諸理論を活用する。

【到達目標】

1. 現代の家族の特徴と課題を知り、家族看護の必要性を理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現)
2. 家族看護を支える理論を知り、家族を単位としたアセスメントの方法を理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現)
3. 事例をもとに、家族に対する看護を理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	井上	1. 家族看護の対象理解	100%	筆記試験 100%
2		2. 家族看護を支える理論と介入方法		
3		3. 家族看護展開の方法		
4		4. 家族看護学の実践		
5				
6				
7				

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
 医)系看「家族看護学」

【参考図書・文献】

【科目】 病理学	【時期】 1年次 後期 【単位 時間数】 1単位 30時間	【担当講師】 米田 玄一郎 ベルランド総合病院 病理診断科 部長	実務経験 26年
------------------------	--	---	-------------

【概要】
 主な症候・疾患の原因、疾患の成り立ち、病態などを共通基盤となる病理学的変化から理解する。
 また、臨床で遭遇する頻度の高い疾患の病態生理を中心に理解し、看護実践の基本となる知識を習得する。

【到達目標】
 主な症候・疾患の診断過程と総論的な病因と病変の特徴を理解する。

【授業計画・内容】				
回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	米田	細胞・組織の損傷と修復、炎症	100%	筆記試験
2		免疫、移植と再生医療		
3		感染症		
4		循環障害		
5		代謝障害		
6		老化と死		
7		先天異常と遺伝性疾患		
8		腫瘍（生活習慣と環境因子による生体の障害）		
9	各論	循環器系の疾患		
10		血液・造血器系の疾患		
11		呼吸器系の疾患		
12		消化器系の疾患		
13		腎・尿路系・生殖器・乳腺の疾患		
14		内分泌系の疾患・脳・神経・筋肉系の疾患		
15		骨・関節系の疾患・眼・耳・皮膚の疾患		
45分				

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】
 ※ 1回は45分授業とする
 ◇ 付章の病理診断の意義、細胞診断、組織診断については、関連する章と合わせて教授する

【テキスト】
 サイオ出版)「病理学」第2版
【参考図書・文献】

【科目】 感染症学	【時期】 2年次 前期 【単位 時間数】 1単位 20時間	【担当講師】 畑中 重克 府中病院 臨床検査技師 実務経験 36年
-------------------------	--	--

【概要】
 感染症の原因となる各種病原体の特徴と生体に及ぼす影響を理解し、感染に対する生体防御機構および感染源・感染経路から感染の予防・診断・治療・現状と対策について理解する。

【到達目標】
 日々の生活と医療、看護の実際に役立つ感染症や感染予防対策方法について学び、看護師としての業務に活かしていく。
 (知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)

【授業計画・内容】					
回数	担当講師	主な内容		評価割合	評価方法
1	各菌の性質について	1. 感染の成立から発症、治療まで	オリエンテーション(授業の進め方、評価方法など) 感染の成立と用語の解説	100%	筆記試験 100%
2		2. 微生物とは 3. 細菌の性質と感染の機構	微生物とは 細菌の形態と特徴、感染のしくみ		
3	感染と感染症・生体防御機構	4. 真菌の性質と感染の機構 5. 原虫の性質と感染の機構 6. ウイルスの性質と感染の機構 7. 感染に対する生体防御機構	真菌の形態と特徴、感染のしくみ 原虫の構造と機能、感染のしくみ ウイルスの特徴・構造と各部分の機能、感染のしくみ 免疫に関わる細胞、組織および臓器 自然免疫のしくみ 獲得免疫のしくみ 粘膜免疫のしくみ		
4		8. 感染の徴候と症状 9. 感染症の検査と診断、治療、感染防止対策	生体防御発現の結果おこる症状 病原体の毒力による症状 病原体を検出する方法 生体の反応から診断する方法 抗菌薬・抗ウイルス薬・抗真菌薬など		
5		10. 滅菌と消毒	Aバイオハザードとバイオセーフティ B滅菌・消毒の意義と定義 C熱による滅菌・消毒 D放射線・紫外線による滅菌・消毒 Eガス滅菌 F濾過除菌 G消毒薬		
6					
7	感染症の現状と対策	11. 主な感染症とその病原体	感染症について(食中毒、皮膚軟部組織感染症、呼吸器感染症、ウイルス感染症、性感染症、その他)		
8					
9 10 45分		12. 感染症の現状と問題点	新興・再興感染症 院内感染とその特徴		

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
 医)系看「微生物学」

【参考図書・文献】

【科目】 薬理学	【時期】 1年次 後期	【担当講師】 田川 優介 山崎 雄平	ベルランド総合病院 薬剤部	実務経験 12年
	【単位 時間数】 1単位 30時間		ベルランド総合病院 薬剤部	6年

【概要】
薬物が生体にどのような影響をおよぼすのか、生体と薬物の相互作用について学習する。薬物の種類、性質、特徴、作用機序、薬理作用、副作用について理解する。

【到達目標】
薬物の種類、性質、特徴、作用機序、薬理作用、副作用などの基本的な知識について理解する。
(知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容		評価割合	評価方法
1	山崎	1. 薬理学を学ぶにあたって	薬物治療と看護 薬理学とはなにか	100%	筆記試験
2		2. 薬理学の基礎知識	薬が作用するしくみ(薬力学) 薬の体内動態(薬物動態学) 薬物相互作用(吸収、分布、代謝、排泄) 薬効の個人差に影響する因子 薬物使用の有益性と危険性		
3					
4	山崎	3. 末梢での神経活動に作用する薬物	神経系による情報伝達と薬物 交感神経作用薬 副交感神経作用薬 筋弛緩薬・局所麻酔薬		
5					
6		4. 中枢神経系に作用する薬物①	中枢神経系のはたらきと薬物 全身麻酔 催眠薬・抗不安薬		
7		5. 中枢神経系に作用する薬物②	抗精神病薬 気分障害治療薬 パーキンソン症候群治療薬 抗てんかん薬 麻薬性鎮痛剤		
8					
9	田川	1. 循環器系に作用する薬物	降圧薬 狭心症治療薬 心不全治療薬・抗不整脈薬・利尿薬・脂質異常症治療薬		
10		2. 代謝性疾患とその治療薬	ホルモンとホルモン拮抗薬(糖尿病治療薬) 治療薬としてのビタミン		
11		3. 抗感染症薬・抗アレルギー薬・抗炎症薬	感染症治療に関する基礎事項 抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬・抗寄生虫薬・感染症の治療における問題点 抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬・抗炎症薬・関節リウマチ治療薬・痛風・高尿酸血症治療薬		
12					
13		4. 化学療法薬	がん治療に関する基礎事項 抗がん薬の種類		
14					
15			終講テスト		

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
医系看「薬理学」

【参考図書・文献】

【科目】 臨床薬理学	【時期】 2年次 前期 【単位 時間数】 1単位 15時間	【担当講師】 島谷 幸希 ベルランド総合病院 薬剤部	実務経験 6年
--------------------------	--	---	------------

【概要】

代表的な薬物療法の実際について学び、薬物療法実施時の支援方法について理解する。
 さらに医薬品の種類や適用、医薬品に関連する法令について学び、臨床で実践されている薬物療法に関する知識を理解する。

【到達目標】

臨床における服薬・注射・点滴等による薬物投与や副作用・アレルギー等の観察など看護者が実施する与薬方法や与薬指導時の看護について理解する。

(知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法		
1	島谷	1. 薬の効果と投与量・剤型 2. 薬の体内挙動 3. 添付文書の見方、 小児・高齢者と薬 4. 妊婦・授乳婦と薬、 薬物治療モニタリング	医薬品の取扱い、薬物治療の実際	100%	筆記試験	
2		5. 消化器系治療薬				制吐剤、便秘薬、下剤、鎮咳薬、去痰薬 止瀉薬、睡眠薬
3		6. 循環器系治療薬				高血圧、急性冠症候群、心不全、不整脈 抗血栓薬、循環動態に関わる持続点滴
4		7. 呼吸器系治療薬				気管支喘息、COPD、胃潰瘍、胃食道逆流症 慢性肝炎、ステロイド薬
5		8. 内分泌・代謝系治療薬 9. 腎臓病治療薬、 抗炎症・抗アレルギー薬 10. 感染症治療薬				CKD、透析、糖尿病、解熱鎮痛薬
6		11. 神経・精神系治療薬				パーキンソン病、認知症、うつ、てんかん 統合失調症
7		12. ホルモン剤、 骨・カルシウム代謝薬 13. がん治療薬 14. その他の治療薬				脂質異常症、骨粗鬆症、関節リウマチ、輸液
8	終講テスト					

【講義に向けての課題・特記事項】
【テキスト】

医)系看「薬理学」 医)系看「臨床薬理学」

【参考図書・文献】

【科目】 臨床栄養学	【時期】 2年次 前期 【単位 時間数】 1単位 30時間	【担当講師】 石田 香 ベルファミリア 管理栄養士	実務経験 8年
--------------------------	--	-------------------------------------	------------

【概要】
 生化学の知識をもとに、栄養成分の働きや体内での変化といった生化学的な側面、および疾病との関係、患者の食事内容や栄養補給方法といった臨床・看護学的な側面の二つに重点を置き、これらの総合的な理解を通して栄養の重要性を適切に認識する。

- 【到達目標】**
1. 栄養学の基礎理論を理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現)
 2. 栄養学の知識を日常で実践する経験によって、自身の生活と結びつけ客観視できる。(知識・技能)(思考・判断・表現)
 3. 疾患別の適切な管理方法が理解できる。(知識・技能)(思考・判断・表現)
 4. 対象者を全人的に理解し、食事療法の支援について深く広く理解する。
(知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)

【授業計画・内容】					
回数	担当講師	主な内容		評価割合	評価方法
1	石田	1. 臨床栄養学の基礎知識	教授内容(教育要綱) 病院給食紹介(スライド) 栄養学	100%	筆記試験
2		2. 食品成分と食事摂取基準	栄養素の種類と働き(糖質・脂質)		
3		3. 日常生活と栄養(食文化、運動と栄養、人生各期における健康生活と栄養)	栄養素の種類と働き(タンパク質・ビタミン・ミネラル)		
4		4. 療養生活と栄養	栄養素の種類と働き(食物繊維・水) 食物の消化と吸収		
5			食物の消化と吸収 エネルギー代謝、食事と食品		
6			食事と食品 栄養ケアマネジメント、栄養状態の評価・判定		
7			栄養状態の評価・判定 ライフステージと栄養		
8			ライフステージと栄養		
9			5. 疾患別の食事療法(消化器系疾患、内分泌・代謝疾患、循環器系疾患、腎疾患)		
10		疾患別の栄養管理と支援方法	6. 食事指導の実際		
11			動脈硬化～脳血管障害 糖尿病、やせ、肥満 脂質異常症～ミネラル欠乏過剰症		
12			腎臓病～摂食・嚥下障害		
13			肝臓・胆のう・膵臓 胃		
14			腸 下痢・便秘 がん 褥瘡 術前後の栄養管理		
15			国試過去問		

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
 ①系書「栄養学」 ②系書「栄養食事療法」 文光堂「食品交換表」
【参考図書・文献】

【科目】	【時期】	【担当講師】	実務経験
治療総論 外科的治療総論 臨床放射線医学 臨床検査	1年次 後期 【単位 時間数】 1単位 30時間	川崎 誠康 ベルランド総合病院 副院長 謝 慶一 ベルランド総合病院 集中治療部主任部長 北岸 英樹 ベルランド総合病院 救急教育センター長 鈴木 賢昭 ベルランド総合病院 放射線室技師長 三平 りさ 府中病院 臨床検査室	24年 32年 35年 36年 31年

【概要】
炎症などの生体反応・麻酔・輸血・疼痛管理・輸液などの手術治療ICU看護に必要な基礎的知識を理解する。
放射線医学の基礎的知識・検査・治療の理解をする。
臨床検査にかかわる共通の一般的事項を理解し、疾患や病態の経過への重要な情報を理解する。

- 【到達目標】
1. 外科的治療における侵襲と生体反応、術前術後管理について理解できる。(知識・技能)
 2. 救急処置法や外傷について理解できる。(知識・技能)(思考・判断・表現)
 3. 放射線医学の基礎的知識・検査・治療について理解できる。(知識・技能)(思考・判断・表現)
 4. 臨床検査の種類と方法について学習し、看護の役割について理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	外科医療 川崎	1. 外科医療の基礎 2. 外科的治療を要する疾患・症状	5%	筆記試験
2	手術療法 謝	1. 外科的治療を支える分野 2. 外科的治療の実際	15%	
3		1. 麻酔法 2. 呼吸管理 3. 体液管理 4. 栄養管理 5. 緩和医療		
4	救急法 北岸	救急看護の基礎	15%	
5		1. 救急処置法の実際 (※講義・BLS演習 3H)		
6		2. 救急看護の実際 外傷・熱傷とショック		
7	臨床放射線医学 鈴木	1. 画像診断 2. 放射線治療 3. 放射線防護	30%	
8		1. 画像診断と看護 2. X線診断 3. CT 4. MRI 5. 超音波検査 6. 核医学検査 7. IVR・血管造影 8. 放射線治療総論 9. 放射線治療と看護 10. 放射線治療各論 11. 放射線による障害と防護		
9				
10				
11	臨床検査・輸血療法 三平	臨床検査の基礎	35%	
12		1. 臨床検査とその役割 2. 臨床検査の流れと看護の役割		
13		おもな臨床検査		
14		1. 一般検査 2. 血液学的検査 3. 化学検査 4. 免疫・血清学的検査 5. 内分泌学的検査 6. 微生物学的検査 7. 病理学的検査 8. 生体検査 1) 生体機能検査 2) 画像検査 3) 内視鏡検査		
15		輸血療法		
		1. 輸血用血液製剤の種類と特徴 2. 輸血実施手順と過誤防止策 3. 輸血副作用 4. 輸血に関する検査 5. 手術時の輸血準備		

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】
BLS演習の事前課題(DVD視聴)に取り組む

【テキスト】
医)系看「臨床外科看護総論」 医)系看「臨床放射線医学」 医)系看「臨床検査」
【参考図書・文献】

【科目】 疾病治療論1 『恒常性を維持する物質物流』 (循環器/血液・造血器)	【時期】 2年次 前期 【単位 時間数】 1単位 30時間	【担当講師】 片岡 亨 南村 弘佳 麥谷安津子	実務経験 ベルランド総合病院院長 循環器内科 28年 ベルランド総合病院心臓病センター長 30年 府中病院 血液疾患センター長 33年
--	--	----------------------------------	--

【概要】
人間の日常生活行動を支えるからだの恒常性を維持する要素となる物質物流に関連し、物流の原動力となる循環機能や流通路や流通の媒体となる血液・造血器機能が障害された場合に起こる症状および徴候に対するメカニズム、診断に用いる検査や治療、処置について学び、日常生活に与える影響を考えるための知識が習得できる。

【到達目標】
1. 循環器の疾病のメカニズムと症状・徴候および診断検査と治療が理解できる。(知識・技能)(思考・判断・表現)
2. 血液・造血器の疾病のメカニズムと症状・徴候および診断検査と治療が理解できる。
(知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)

【授業計画・内容】					
回数	担当講師	主な内容		評価割合	評価方法
1	循環器内科疾患のメカニズム・疾患・治療を知る 片岡講師	2章 循環器の構造と機能	心臓の解剖と機能 血管の構造と機能 循環の調節	65%	①筆記試験 ②授業への参加態度を総合し評価
2		3章 症状とその病態生理	症状と疾患 胸痛・動機・呼吸困難・浮腫・チアノーゼ・めまい・失神・四肢の疼痛・ショック		
3		4章 検査と治療 (但し、C-②外科的治療は除く)	診察と診断の流れ 検査(心電図、胸部レントゲン検査、心エコー法、脈波検査、心臓カテーテル法、血行動態モニタリング、心臓核医学検査、コンピュータ断層撮影(CT)、磁気共鳴画像法(MRI) 治療(内科的治療・補助循環装置)		
4					
5		5章 疾患の理解	A: 虚血性心疾患		
6		5章 疾患の理解	A: 虚血性心疾患、B: 心不全、C: 血圧異常		
7		5章 疾患の理解	D: 不整脈、E: 弁膜症、F: 心膜炎		
8		5章 疾患の理解	G: 心筋疾患、H: 肺性心、I: 先天性心疾患		
9		5章 疾患の理解	J: 動脈系疾患、K: 静脈系疾患		
10*		5章 疾患の理解(45分授業)	L: リンパ系疾患		
11	器理器外科の疾患を知る 南村講師	(臨床外科看護各論) 2章 A: 心臓の疾患	心臓外科 虚血性心疾患と弁膜症	15%	
12		(臨床外科看護各論) 2章 B: 血管の疾患 (動脈系・静脈系)	心臓外科 虚血性心疾患と弁膜症		
13	二血液・造血器の疾患を知る 治療力 麥谷講師	2章 血液の生理と造血のしくみ	血液の成分と機能 造血のしくみ	20%	
14		3章 疾患の理解	赤血球系の異常(貧血)、白血球系の異常(白血球減少症)、造血器腫瘍(腫瘍)、出血性疾患		
15		4章 検査と治療・処置	骨髄穿刺、造血幹細胞移植含む		

※筆記試験 1 H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
医)系看「循環器」 医)系看「血液・造血器」 医)系看「臨床外科看護各論」
【参考図書・文献】

【科目】 疾病治療論2 『息をする』(呼吸器)	【時期】 2年次 前期	【担当講師】		実務経験
	【単位 時間数】 1単位 15時間	若山 公作 梁 尚志 江口 陽介 小松 弘明	ベルライフケアクリニック常勤員 府中病院 副院長 ベルランド総合病院 呼吸器内科 ベルランド総合病院 呼吸器外科	35年 34年 21年 17年

【概要】

『息をする』という日常生活動作に関連する呼吸機能が障害された場合に発生する症状および徴候に対するメカニズム、診断検査や治療を学び、日常生活に与える影響を考えるための知識が習得できる。

【到達目標】

呼吸器の疾病のメカニズムと症状・徴候および診断検査と治療について理解する。

(知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容		評価割合	評価方法
1	構造と機能 若山	1.呼吸器の構造と機能 2.症状とその病態生理	1.呼吸器の構造 2.呼吸の生理 3.自覚症状 4.他覚症状	30%	①筆記試験 ②授業への参加態度を総合し、評価する
2		検査と治療・処置	1.検査 血液検査、喀痰検査、ぬぐい液検査 胸水検査、画像診断、内視鏡検査、 生検、呼吸機能検査、 睡眠時呼吸モニタリング 2.治療・処置 吸入療法、酸素療法、人工呼吸療法 呼吸リハビリテーション、気道確保 胸腔ドレナージ、呼吸器外科の手術		
3	疾患の理解 江口	疾患の理解	1.感染症 2.間質性肺疾患 3.気道疾患 4.肺循環疾患 5.呼吸不全 6.呼吸調整に関する疾患 7.肺腫瘍 8.肺・肺血管の形成異常 9.胸膜・縦隔・横隔膜の疾患 10.肺移植 11.胸部外傷	40%	
4					
5					
6	呼吸器外科 梁	肺・胸部の疾患①	1.肺および気管支の疾患 1)肺腫瘍 2.胸膜の疾患 3.縦隔の疾患	15%	
7	小松	肺・胸部の疾患②	1.胸部外傷 2.肺切除	15%	
8		終講テスト			

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】

医)系看「呼吸器」 医)系看「臨床外科看護各論」

【参考図書・文献】

【科目】	【時期】	【担当講師】	実務経験
疾病治療論3 『動く』 (運動器/脳神経内科)	2年次 前期 【単位 時間数】 1単位 20時間	西谷 信之 ベルランド総合病院 認知症脳機能センター 馬野 雅之 府中病院 整形外科 谷 亮佑 府中病院 整形外科 加納 慎也 ベルランド総合病院 整形外科	28年 9年 9年 8年

【概要】

『動く』という日常生活行動に関連する運動機能が障害された場合に発生する症状および徴候に対するメカニズム、診断検査や治療を学び、日常生活に与える影響を考えるための知識が習得できる。

【到達目標】

1. 運動器の疾病のメカニズムと症状・徴候および診断検査と治療について理解する。
(知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)
2. 神経内科系の疾病のメカニズムと症状・徴候および診断検査と治療について理解する。
(知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	馬野・谷	運動器の構造と機能 症状とその病態生理	40%	①筆記試験 ② 授業への参加態度を総合し、評価する
2		診断・検査と治療・処置		
3		疾患の理解：外傷性の運動器疾患 A：骨折 B：脱臼 C：捻挫および打撲 D：神経の損傷 E：筋・腱・靭帯等の損傷		
4		骨折（各論） 脱臼 ねんざ 打撲（各論）		
5	加納	疾患の理解：非外傷性の運動器疾患 A：先天性疾患 B：骨・関節の炎症性疾患 C：骨腫瘍および軟部腫瘍 D：代謝性骨疾患 E：筋および腱の疾患 F：神経の疾患 G：上肢および上肢帯の疾患 H：脊椎の疾患 I：下肢および下肢帯の疾患 J：ロコモティブシンドロームと運動器不安定症	20%	
6		非外傷性の運動器疾患		
7	西谷	疾患の理解 B：脊髄疾患(1・4・5を除く) C：末梢神経障害(ギラン・バレー症候群、顔面神経麻痺・ベル麻痺など) F：感染症(脳炎、髄膜炎など)	40%	
8		D：筋疾患・神経筋接合部疾患(筋ジストロフィー(MD)、重症筋無力症(MG)など) E：脱髄・変性疾患(多発性硬化症(MS)など)		
9		G：中毒 H：てんかん I：認知症 J：内科疾患に伴う神経疾患		
10 45分		総括		

※筆記試験 1H(整形のみ)

【講義に向けての課題・特記事項】

※ 西谷講師 各回 講義後選択式試験

【テキスト】

医)系書「運動器」 医)「脳・神経」

【参考図書・文献】

【科目】 疾病治療論4 『見る』『聴く』『話す』 (脳神経・眼・耳鼻)	【時期】 2年次 後期 【単位 時間数】 1単位 15時間	【担当講師】 (調整中) 服部 良太 ベルランド総合病院 眼科 木村 直幹 ベルランド総合病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	実務経験 23年 13年
--	--	--	--------------------

【概要】
『見る』『聴く』『話す』という日常生活行動に関連する脳・神経機能や感覚機能に障害が発生した場合に発生する症状および徴候に対するメカニズム、診断検査や治療を学び、日常生活に与える影響を考えるための知識が習得できる。

- 【到達目標】
1. 脳・神経系の疾病のメカニズムと症状・徴候および診断検査と治療について理解する。
(知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)
 2. 感覚器系(眼・耳鼻咽喉)の疾病のメカニズムと症状・徴候および診断検査と治療について理解する。
(知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	(調整中)	(テキスト)系：看成人看護学⑦ 2章 脳・神経系の構造と機能 3章 症状とその病態生理	40%	①筆記試験 ②授業への参加 態度を総合し、 評価する
2		(テキスト)系：看成人看護学⑦ 4章 検査・診断と治療・処置		
3		(テキスト)別巻：臨床外科看護各論 4章 脳および神経 A.脳の疾患		
4	服部	2章 眼の構造と機能 4章 検査と治療・処置	30%	
5		5章 疾患の理解		
6	木村	2章 耳鼻咽喉・頭部の構造と機能 4章 検査と治療	30%	
7		5章 疾患の理解		

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】

医)系看「脳・神経」成人看護学⑦ 医)系看「臨床外科看護各論」 医)系看「眼」 医)系看「耳鼻咽喉」

【参考図書・文献】

【科目】 疾病治療論5-1 『食べる』(消化器(口腔含む))	【時期】 2年次 前期 【単位 時間数】 1単位 30時間	【担当講師】 西尾 公一 西尾歯科医院 院長 山尾 純一 奈良県立医科大学 中央内視鏡科病院教授 野田 英児 府中病院 外科センター 消化器外科 小川 雅生 ベルランド総合病院 肝胆膵外科	実務経験 43年 10年 26年 19年
--------------------------------------	--	--	----------------------------------

【概要】
『食べる』『トイレに行く』という日常生活行動に関連する消化機能、腎・泌尿器機能に障害が発生した場合に発生する症状および徴候に対するメカニズム、診断検査や治療を学び、日常生活に与える影響を考えるための知識が習得できる。

- 【到達目標】
1. 消化器の疾病のメカニズムと症状・徴候および診断検査と治療について理解する。
(知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)
 2. 感覚器系(口腔)の疾病のメカニズムと症状・徴候および診断検査と治療について理解する。
(知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法	
1	口腔 西尾	1. 歯・口腔の構造と機能 2. 検査と治療・処置 3. 疾患の理解	5%	①筆記試験 ②授業への参加態度を総合し、評価する	
2	消化器疾患(内科) 山尾	消化器の構造と機能	60%		
3		症状とその病態生理			
4		検査と治療			
5		疾病の理解			
6					
7					
8					
9					
10	消化器疾患(外科) 野田	1. 消化器および腹部 1) 消化器・腹部の疾患	5%		
11			5%		
12			5%		
13		小川	1. 肝臓・肝外胆道系の疾患 2. 膵臓の疾患 3. 門脈の疾患 4. 脾臓の疾患		20%
14					
15					

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
医)系書「消化器」 医)系書「歯・口腔」 医)系書「臨床外科看護各論」

【参考図書・文献】

【科目】 疾病治療論5-2 『トイレに行く』 (腎臓・泌尿器)	【時期】 2年次 前期 【単位 時間数】 1単位 15時間	【担当講師】 木村 俊明 木村医院 院長 大町 哲史 府中クリニック 所長 実務経験 26年 28年
---	--	--

【概要】
『食べる』『トイレに行く』という日常生活行動に関連する消化機能、腎・泌尿器機能に障害が発生した場合に発生する症状および徴候に対するメカニズム、診断検査や治療を学び、日常生活に与える影響を考えるための知識が習得できる。

【到達目標】
1. 腎・泌尿器の疾病のメカニズムと症状・徴候および診断検査と治療について理解する。
(知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	腎臓の疾患 木村	1. 腎臓の構造と機能 教授内容(教育要綱) 腎臓の構造と機能	40%	①筆記試験 ②授業への参加態度を総合し、評価する
2		2. 症状と病態生理、 1) 検査と治療・処置 2) 尿、分泌物検査、腎機能検査、画像検査、生研 3) ホルモン療法、透析、他		
3		3. 疾患の理解 1) 腎不全と慢性腎臓病 2) ネフローゼ症候群 3) 糸球体腎炎 4) 全身性疾患による腎障害 5) 尿管間質性腎炎 6) 腎血管性病変、腎臓の腫瘍 他		
4	泌尿器の疾患 大町	1. 尿管・膀胱・尿道・男性生殖器の構造と機能、経尿道的操作および内視鏡検査、他	60%	
5		2. 疾患の理解 1) 尿路・性器の感染症 2) 尿路の通過障害と機能障害 3) 尿路損傷および異物 4) 尿路結石症		
6		5) 尿路・性器の腫瘍 6) 発生・発育の異常 7) 男性不妊症、男性性機能障害、その他の男性生殖器疾患		
7		3. 手術の実際		

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
(医)系看「腎・泌尿器」
【参考図書・文献】

【科目】 疾病治療論 6 『生体防御機能』 (皮膚/アレルギー・膠原病) 『恒常性を維持する調節機能』 (内分泌・代謝)	【時期】 2年次 前期 【単位 時間数】 1単位 30時間	【担当講師】 綾野 悠加 府中病院 皮膚科 若山 公作 ベルライフケアクリニック 常勤顧問 八木 稔人 ベルランド総合病院内分泌・代謝科 藤木 典隆 ベルランド総合病院内分泌・代謝科 嵩 龍一 ベルランド総合病院内分泌・代謝科	実務経験 11年 35年 43年 23年 16年
---	--	--	---

【概要】
生体の防御機能となる、皮膚および免疫機能が障害された場合に発生する症状および徴候に対するメカニズム、診断検査や治療を学び、日常生活に与える影響を考えるための知識が習得できる。
人間の日常生活行動を支えるからだの恒常性維持のための調節機能である、内分泌・代謝機能に障害が発生した場合に発生する症状および徴候に対するメカニズム、診断検査や治療を学び、日常生活に与える影響を考えるための知識が習得できる。

【到達目標】

1. 皮膚疾患のメカニズムと症状・徴候および診断検査と治療について理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)
2. 免疫機能障害のメカニズムと症状・徴候および診断検査と治療について理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)
3. 内分泌・代謝器の疾患のメカニズムと症状・徴候および診断検査と治療について理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容		評価割合	評価方法		
1	綾野	2章 皮膚の構造と機能、 3章 症状とその病態生理 4章 検査と治療・処置	皮膚の構造・皮膚の機能 発疹、痒疹(かゆみ)、皮膚の老化 皮膚科的検査法、病原微生物の検査法 病理組織検査法、分子生物学的検査法 全身療法・外用療法・手術療法・光線療法・レーザー療法・放射線療法・電気外科・凍結療法・温熱療法・ケミカルピーリング等	15%	①筆記試験 ②授業への参加 態度を総合し、 評価する		
2		5章 疾患の理解	A. 表在性皮膚疾患 B. 真皮・皮下脂肪組織および皮膚付属器の疾患 C. 脈管系の異常による皮膚疾患 D. 物理・化学的皮膚障害 E. 腫瘍および色素異常症				
3	若山	<アレルギー> 2章 免疫のしくみとアレルギー (p16~)	A. 免疫反応と疾患 B. 免疫担当細胞と伝達物質 C. アレルギーのしくみ	30%			
4		<膠原病> 2章 自己免疫疾患とその機序 (p122~)	A. 自己と非自己の区別 B. 免疫トランス C. 自己免疫疾患の病態				
5		<アレルギー> 3章 診断・検査と治療 (p32~) <膠原病> 4章 検査と治療 (p136~)	<アレルギー> A. 診察の流れ B. 検査: スキンテスト他 C. 治療: 薬物療法(副腎皮質ステロイド、減感作療法)、アレルギー免疫療法 <膠原病> B. 検査 C. 治療: 薬物療法(免疫抑制薬他)				
6		<アレルギー> 4章 症状と疾患の理解 (p40~)	気管支喘息、アレルギー性鼻炎・結膜炎、食物アレルギー、アナフィラキシー、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、薬物アレルギー、ラテックスアレルギー、職業性アレルギー、ペット・昆虫アレルギー、化学物質過敏症、血清病等				
7		<膠原病> (45分授業) 5章 疾患の理解 (p150~)	関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、抗リン脂質抗体症候群、シェーグレン症候群、全身性強皮症、多発筋炎、皮膚筋炎、混合性結合組織病、ベーチェット病、血管炎症候群、リウマチ性多発筋痛症、成人発症スティル病等				
8		嵩	2章 内分泌・代謝器の構造と機能			A. 内分泌器の構造と機能 B. 内分泌器とホルモンの機能 C. 代謝の概要と機能	八木 15% 藤木 20% 嵩 20%
9			3章 症状とその病態生理 4章 検査			3章 A. 体重変化・身長異常 B. 容顔の変化 C. 神経・筋症状 D. 循環器症状 E. 消化器症状 F. 皮膚の変化 G. 無月経 4章 A. 内分泌疾患の検査 B. 代謝疾患の検査	
10	八木		5章 疾患の理解(代謝疾患)	糖尿病の診断と治療 合併症(慢性と急性)、高齢者の糖尿病			
11	藤木		5章 疾患の理解(代謝疾患)	糖尿病合併症			
12			5章 疾患の理解(内分泌疾患)	甲状腺疾患(バセドウ病、橋本病他)			
13	嵩		5章 疾患の理解(内分泌疾患)	副甲状腺疾患			
14	八木		5章 疾患の理解(内分泌疾患)	視床下部-下垂体前葉系疾患 視床下部-下垂体後葉系疾患			
15	藤木		5章 疾患の理解(内分泌疾患・代謝疾患)	膵・消化管内分泌腫瘍 脂質異常症 膵膵過去関等			

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
医)系書「皮膚」 医)系書「アレルギー 膠原病 感染症」 医)系書「内分泌・代謝」

【参考図書・文献】

【科目】 疾病治療論Ⅶ (精神病理学・老年医学)	【時期】 2年次 後期	【担当講師】 利田 泰之 久米田病院理事長 戸田 爲久 本校 学校長	実務経験
	【単位 時間数】 1単位 15時間		32年 30年

【概要】

精神疾患と精神症状に関する治療を理解し、看護の役割としての治療的関わりを科学的判断のもと参加できるよう知識をもつことができる。
老年者の加齢に伴う変化と特徴を捉え、特有の健康課題及び疾患の特徴や治療について理解することができる。

【到達目標】

1. 主な精神疾患・診断・治療・症状・薬物について理解する。 (知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)
2. 老年期に特有の疾患および症状・診断・検査・治療について理解する。 (知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	精神病理学 利田	精神症状論と状態像	40%	①筆記試験 ②授業への参加態度を総合し、評価する
2		精神障害の診断と分類		
3		精神科での治療		
4	老年医学 戸田	1. 老年症候群 2. 高齢者の健康状態の把握と総合機能評価 3. 高齢者と薬 1) 高齢者の安全な薬物療法	60%	
5		高齢者の疾患の特徴①		
6		高齢者の疾患の特徴②		
7		高齢者の疾患の特徴③		
8		終講テスト		

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】

医系書「精神看護の基礎」 医系書「精神看護の展開」
医系書「老年看護 病態・疾患論」

【参考図書・文献】

【科目】 リハビリテーション 治療論	【時期】 1年次 後期 【単位 時間数】 1単位 15時間	【担当講師】 森野 恭典 ベルランド総合病院理学療法室 技師長	実務経験 34年
--------------------------	--	---------------------------------------	-------------

【概要】
リハビリテーション医学の基礎を理解する。

- 【到達目標】
1. リハビリテーションの定義と主な概念が理解できる。(知識・技能)(思考・判断・表現)
 2. リハビリテーションにおける倫理、法律、施策が理解できる。(知識・技能)(思考・判断・表現)
 3. リハビリテーション医療におけるチーム医療および看護の役割が理解できる。
(知識・技能)(思考・判断・表現)(学びに向かう力)
 4. 身体機能のメカニズムを理解しアセスメントができる。(知識・技能)(思考・判断・表現)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	森野	リハビリテーションとは(定義・分野・時期・チーム医療)	100%	筆記試験 100%
2		障害とは(ICD・ICIDH・ICF・障害受容・自立・ADL・廃用症候群)		
3		運動器疾患のリハビリテーション(骨折・関節拘縮・筋力低下・末梢神経障害)		
4		実技①(杖・松葉杖の合わせ方と指導方法・車いすの操作と介助方法)		
5		中枢神経疾患のリハビリテーション (脳血管障害・高次脳機能障害・嚥下障害・脊髄損傷)		
6		呼吸器・循環器疾患のリハビリテーション		
7		実技②(寝返り・起き上り・立ち上り・移乗の介助方法)		

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】
移動・移乗、車椅子移送、杖歩行など演習を含みます。

【テキスト】
南)「リハビリテーション看護」

【参考図書・文献】

【科目】	【時期】	【担当講師】	実務経験
ヘルスプロモーション演習	1 年次 前期 【単位 時間数】 1 単位 20時間	山下 幸代 専任教員	21年

【概要】

あらゆる人々が、健康を維持・増進しながらその人らしく生活するためのヘルスプロモーションを学ぶ。ヘルスプロモーションの考え方をもとに、あなたの身近な人に健康になっていただける提案を考える。

【到達目標】

1. 身近な人の健康を守るための提案に関心を持ち、主体的に取り組むことができる。
(知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)
2. 身近な人を対象として、身体的・心理的・社会的側面から生活を観察し、健康的な生活を送るために必要なことは何かを根拠をもって考えることができる。
(思考・判断・表現) (知識・技能)
3. 看護者として看護・健康・人間・生活を総合的に関連付けて見ることができ、課題発見力の基礎が身につく。
(思考・判断・表現)
4. 対象の“願い”や“望む生活”を引き出しながら、健康の保持・増進のために必要な学習支援を行うことの重要性を理解することができる。
(知識・技能) (思考・判断・表現)
5. 自分の提案を論理的にまとめ、プレゼンテーションできる。
(知識・技能) (学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	山下	1. プロジェクト学習の概要	100%	①プロジェクト取組み状況 ②ポートフォリオ活用 ③プレゼンテーション ④再構築 ⑤成長確認の視点で評価する(100点) 評価指標は、ルーブリックに示す
2		2. 大切な人の決定		
3		3. 情報収集の仕方		
4		4. 課題と目標の設定		
5		5. ポートフォリオの活用		
6		6. 解決に向けた対策を考える①		
7	効果的なプレゼンテーションと振り返り	9. プロジェクト成果の発表	100%	①プロジェクト取組み状況 ②ポートフォリオ活用 ③プレゼンテーション ④再構築 ⑤成長確認の視点で評価する(100点) 評価指標は、ルーブリックに示す
8		10. 再構築と成長報告		
9				
10				

【講義に向けての課題・特記事項】

プロジェクト学習の手法により展開する

【テキスト】

【参考図書・文献】

又)成書「ヘルスプロモーション」 医)「成人看護学概論」 医)「看護学概論」
現代社)フロレンス・ナイチンゲール著 湯植 ます訳「看護覚え書」

【科目】 健康増進・ 予防的保健行動支援論 (地域診断演習)	【時期】 2年次 前期 【単位 時間数】 1単位 20時間	【担当講師】 濱田 真由美 本校 副学校長	実務経験 6年
--	--	---------------------------------	------------

【概要】

あらゆる人々が、健康を維持・増進しながらその人らしく生活するためのヘルスプロモーションを学ぶ。地域診断演習では、プロジェクトの手法を用いて、地域の特性から抽出された課題をもとに、住居のニーズ、健康上の課題を発見し、地域の強みを活用した提案を考える。

【到達目標】

1. 健康的な生活を送るために必要なことは何かを根拠をもって提案できる(知識・技能) (思考・判断・表現)
2. 地域診断の意義について理解する (知識・技能)
3. 地域診断のプロセスがわかる (知識・技能) (思考・判断・表現)
4. 地域の健康を守るための提案に関心をもち、主体的に取り組むことができる (学びに向かう力)
5. 地域の特性を把握・分析できる。 (知識・技能) (思考・判断・表現)
6. 提案を論理的にまとめ、プレゼンテーションできる (知識・技能) (学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容		評価割合	評価方法
1	健康増進・ 予防的保健 行動支援論 と地域診断	1. 健康増進・予防的保健行動とは 2. 地域診断とは	1. 健康増進・予防的保健行動とは 2. 地域診断とは		
2 3 4 5 6 7	健康的な生活 を支える看護 濱田	3. 地域診断の進め方 4. コミュニティ・アズ・パートナーズモデルを用い、地域診断の展開(演習) ・地域の概要や健康に関する情報収集・分析 ・住民のニーズなど健康に関する情報収集・分析 ・健康上の課題の明確化 ・計画立案 *地域別にライフサイクル、精神領域、地域・在宅領域に活動する*	1. 地域診断の進め方 2. コミュニティ・アズ・パートナーズモデルを用い、地域診断の展開(演習) ・地域の概要や健康に関する情報収集 ・分析 ・住民のニーズなど健康に関する情報収集・分析 ・健康上の課題の明確化 ・計画立案	100%	①プロジェクト 取り組み状況 ② ポートフォリオ 活用 ③プレゼンテー ション ④再構築 ⑤成長確認 の視点で評価す る(100点)。 評価指標は、 ルーブリックに 示す
8 9 10	効果的なプレゼン テーションと振り返	5. プレゼンテーション 6. まとめ	1. プレゼンテーション 2. 振り返り(自己評価) 3. ルーブリック評価		

【講義に向けての課題・特記事項】

プロジェクト学習の手法により展開する

【テキスト】

医) 公衆衛生 メ) ヘルスプロモーション 照林社) 基礎からわかる地域・在宅看護論

【参考図書・文献】

医) コミュニティアズパートナー第2版 メ) 行動科学からみた健康と病気 医歯薬) 地域看護アセスメントガイド
PILAR) 看護師のための地域看護学

【科目】 成長と発達を支える看護	【時期】 2年次 後期 【単位 時間数】 1単位 30時間	【担当講師】 坂本 哲子 専任教員	実務経験 7年
---------------------	--	----------------------	------------

【概要】
子どもの成長・発達に応じた健康の保持増進のための支援と場を知り、子育て世代へのサポートのあり方や、現代社会の育児に対する課題を理解する。

【到達目標】

1. 母子保健に関わる法律、女性の就労に関する法律を理解できる。(俊樹・技能)
2. 地域の子育て支援事業の目的・役割について理解できる。(知識・技能)
3. 親と子どもを取り巻く環境を知り、子どもが健やかに成長するための課題について考えることができる。
(思考・判断・表現) (学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法	
1	坂本	1) 母子保健に関わる法律 (母体保護法・母子保健法・児童福祉法・児童虐待防止法)	100%	筆記試験 70% レポート課題 30%	
2		2) 女性の就労に関する法律 (労働基準法・男女雇用機会均等法・育児/介護休業法)			
3		3) 母子保健施策①健康診査、②保健指導、③療養援護、④医療対策 健やか親子21の課題と展望			
4		4) 産前産後ケア事業			
5		1) 周産期医療システム (母体搬送・新生児搬送・周産期医療ネットワーク)			
6		1) 地域における子育て支援事業 (児童福祉法・児童憲章・虐待防止法・医療費支援) こんにちは赤ちゃん事業 ワークライフバランス			
7		1) 子どもと家族を取り巻く社会 ・学校保健法・食育・SDGs ・医療費の支援			
8		テーマ：現在社会における育児に対する課題 グループワーク			
9		現代社会における育児に			テーマ：現在社会における育児に対する課題 発表 まとめ
10					
11					
12		保世と健望の望望母子			テーマ：世界の母子保健の課題と展望 グループワーク
13					発表
14					まとめ
15					

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】
進捗状況により変更あります。

【テキスト】
医)系看「小児看護学概論・総論」メ)系看 母性看護学①「母性看護学概論 ウィメンズヘルスと看護」

【参考図書・文献】
医)系看「小児看護学各論」医)看護のための人間発達学

【科目】	【時期】	【担当講師】	実務経験
病気回避行動を支える看護の基本	2年次 前期 【単位 時間数】 1単位 30時間	加治木 みち 非常勤講師	21年

【概要】

なんらかの心身状態があるときを「半健康」と呼ぶ。これらの状態は、感染症・外傷などの疾患につながる準備状態となる。また、半健康状態を持続させると重症化することがあり、半健康状態を持続させないことは、病気の回避にもつながる。病気回避行動を支える看護の基本では、乳幼児期から高齢期までそれぞれのライフステージにおいて、心身機能の低下を回避し、健康を維持・向上するヘルスプロモーション支援を学ぶ。

【到達目標】

1. 病気回避行動の考え方が理解できる（知識・技能）
2. ライフステージにおける健康の社会的決定要因と病気回避行動が理解できる（知識・技能）（思考・判断・表現）（学びに向かう力）
3. ヘルスプロモーションを支える理論が理解できる（知識・技能）
4. 病気を回避するためのヘルスプロモーションを支える看護について理解できる（知識・技能）（思考・判断・表現）
5. 病気回避行動における看護の役割について考えることができる（思考・判断・表現）

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	加治木	1. 健康行動と不健康行動	100%	筆記試験 100%
2		2. ウェルビーイングの捉え方		
3		3. 病気回避行動とは		
4				
5		4. 病気対処行動をとる人を知る ・障害とは ・機能低下とは		
6				
7		5. 病気回避行動に影響する社会的決定要因		
8				
9				
10		6. ライフステージと病気回避行動		
11				
12				
13		7. 代表的な理論 (動機づけ理論・セルフケア理論・ICFモデル・ストレングスモデル)		
14				
15				
14	8. 保健行動や生活行動変容の支援 ライフステージと保健医療福祉制度			
15				

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】

【参考図書・文献】

メ) 「ヘルスプロモーション」 「行動科学からみた健康と病気」

【科目】	【時期】	【担当講師】	実務経験
病氣回避行動を支える看護 の実際	2年次 前期	中村 ゆかり 専任教員	38年
	【単位 時間数】 1単位 30時間		

【概要】

なんらかの心身状態があるときを「半健康」と呼ぶ。これらの状態は、感染症・外傷などの疾患につながる準備状態となる。また、半健康状態を持続させると重症化することがあり、半健康状態を維持させないことは、病気の回避にもつながる。病氣回避行動を支える看護の実際では、乳幼児期から高齢期までそれぞれのライフステージにおいて、心身機能の低下を回避し、健康を維持・向上するヘルスプロモーション支援の実際を学ぶ。

【到達目標】

1. ライフステージ・支援の場における看護の実際を学ぶ（知識・技能）（学びに向かう力）
2. 生活機能や精神機能を評価する視点が理解できる（知識・技能）
3. 病氣回避行動をとる対象とその家族への看護・制度について理解できる（知識・技能）（思考・判断・表現）
4. 多職種役割と福祉・行政との連携の必要性について理解できる（知識・技能）
5. 倫理的問題と自己決定支援について理解できる（知識・技能）（思考・判断・表現）

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	中村	1. 「話す」：コミュニケーション（老人性難聴、失語症、構音障害） 老年看護に必要なコミュニケーション技術 2. 誤嚥・窒息のリスクを低減するための看護技術 1) 摂食訓練開始・中止の判断 2) 食事介助の実際 ポジショニング、食事の介助位置、スプーンの使い方 とろみ調整剤の使用、アイスマッサージ、口腔ケア 3) 胃瘻を造設した人の看護	100%	筆記試験 100%
2				
3				
4				
5				
6		1. 健康保険 2. 精神保健保健法 3. 障害者総合支援法 4. 障害年金 5. 障害者雇用促進法 6. 介護保険		
7				
8		1. ストレスチェック 2. CGA 3. ADL 4. iADL 5. 日常生活自立度 6. iCF		
9				
10		1. ステイグマ 2. エイジズム 3. アドボカシー 4. 成年後見制度 5. 日常生活自立支援事業		
11				
12		1. 家族の健康と生活 1) 家族形態の変化 2) 家族機能と現状 3) 家族のアセスメント 4) 家族への支援		
13				
14		1) チームアプローチに必要な基礎知識 2) 高齢者へのチームアプローチに必要な専門職連携実践 3) 高齢者に関わる多様な専門職の理解と協働の実際		
15				

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】

【参考図書・文献】

- 医) 「成人看護学」「老年看護学」「老年病態・疾病論」「精神看護基礎」「小児看護学概論・小児臨床看護総論」
 厚) 国民の福祉と介護の動向

【科目】	【時期】	【担当講師】	実務経験
病氣対処行動を支える看護の基本1	2年次 前期 【単位 時間数】 1単位 30時間	角野 雅春 専任教員	18年

【概要】
生活習慣が身体に与える影響について理解し、対象が体調不良を感じ適切な診断・治療を受けるために必要な病氣対処行動を行い、自己の健康回復にむけた行動を支えるための看護について学ぶ。また、各ライフサイクルでの病氣回復行動における特徴について理解を深め、対象に応じた看護実践について思考を深める。

- 【到達目標】
- ①生活習慣が身体に与える影響と病氣対処行動について理解する（知識・技能）（思考・判断・表現）
 - ②健康の妨げになっている疾病の診断に必要な検査や処置について理解する（知識・技能）（思考・判断・表現）
 - ③ライフサイクルにおける病氣回復行動の実際について理解する（知識・技能）（思考・判断・表現）
 - ④病氣回復行動を支えるための理論と要因について理解する（知識・技能）（思考・判断・表現）
 - ⑤病氣回復行動を支えるために必要な看護について理解する（知識・技能）（思考・判断・表現）
 - ⑥地域における病氣回復行動にむけた支援について理解する（知識・技能）（思考・判断・表現）
 - ⑦病氣対処行動を支える看護について探求することができる（学びに向かう力）

【授業計画・内容】					評価割合	評価方法
回数	担当講師	主な内容				
1	生活習慣が健康に及ぼす影響、病氣回復行動と病氣回復行動	生活習慣が健康に及ぼす影響と病氣対処行動	1. 生活習慣が健康に及ぼす影響と病氣対処行動 生活習慣病とは 生活習慣病が身体に及ぼす影響 体調不良と病氣対処行動	100%	筆記試験 100%	
2	健康の妨げになっている疾病の診断に必要な検査や処置	健康の妨げになっている疾病の診断に必要な検査や処置	2. 疾病の診断を受けた人の特徴と看護の実際			
3	病氣への対処行動と意思決定	病氣への対処行動と意思決定	3. 病氣への対処行動と意思決定 1) 受診行動 2) 検査と診断 3) 治療および回復過程			
4	健康状態と病氣回復行動の特徴	健康状態と病氣回復行動の特徴	4. 健康状態と病氣回復行動の特徴			
5	ライフサイクルにおける病氣回復行動の実際	ライフサイクルにおける病氣回復行動の実際	5. 各ライフサイクルにおける病氣回復行動 ①各ライフサイクルにおける健康を妨げる要因と健康課題 ②各ライフサイクルにおける病氣回復行動の特徴			
6	病氣回復行動を支えるための理論と要因	病氣回復行動を支えるための理論と要因	6. 病氣回復行動を支える要因と理論 ・ストレス理論：Selye(セリエ) ・危機理論：Caplan, G (カプラン)、Aguilera, D.C (アギェラ)、Fink, S.L (フィンク) ・適応理論 (ロイ) ・障害受容、受容段階・病みの軌跡 ・コンプライアンス行動とアドヒアランス行動 ・セルフケア行動 (セルフケア不足理論：オレム) ・ウェルネス行動 (ストレングスモデル、ICFモデル、 動機づけ理論、エンパワメント			
7						
8						
9						
10						
11	病氣回復行動を支えるために必要な看護の実際	病氣回復行動を支えるために必要な看護の実際	8. 病氣回復行動を支えるために必要な看護の実際			
12						
13						
14	地域における病氣回復行動にむけた支援	地域における病氣回復行動にむけた支援	9. 地域における病氣回復行動にむけた支援の実際			
15						

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】 南) 成人看護学概論 医) 系書「老年看護学」「小児看護学概論・総論」

【参考図書・文献】 メ) 「ヘルスプロモーション」「行動科学からみた健康と病氣」

【科目】 病氣対処行動を支える看護の基本2	【時期】 2年次 前期 【単位 時間数】 1単位 15時間	【担当講師】 長尾 綾子 専任教員	実務経験 14年
---------------------------------	--	-----------------------------	-------------

【概要】
 生活者である対象が、健康課題を持ちながらも自己の健康と向き合い、健康の社会的決定要因をコントロールし、改善に向けた健康課題への対処行動と行動変容を支えるために必要な看護と、社会資源やソーシャルサポートについて学ぶ。

- 【到達目標】**
1. 健康課題の改善に向けた対処行動とそれをさせる支援の実際について理解する。(知識・技能)
 2. 学習援助型の教育理論を理解する。(知識・技能)(思考・判断・表現)
 3. 学習援助型の理論を基に対象の行動変容を促す支援について考えることができる。(知識・技能)(思考・判断・表現)
 4. 対象が病氣対処行動をとるために必要な支援について探求する姿勢を養う。(学びに向かう力)

【授業計画・内容】					
回数	担当講師	主な内容		評価割合	評価方法
1	健康課題と学習援助型の教育・行動変容	健康課題の改善に向けた対処行動とそれをさせる支援について理解する。学習援助型の教育理論を理解する。	1. 健康課題と行動変容 2. 学習援助型の教育とは		
2	学習援助型の教育と行動変容を促進する諸理論	学習援助型の理論を基に対象の行動変容を促す支援について考えることができる。	3. 学習援助型の教育と行動変容を促進する諸理論 1) エンパワメントアプローチ 2) 自己効力感 (Bandura) 3) 変化のステージ理論 (プロチェスカ・ディクレメント) 4) ストレス・コーピング 5) ソーシャルサポート 6) ローカス・オブ・コントロール 7) ヘルスコミュニケーションとグローバルヘルスコミュニケーション		100%
3					
4					
5	健康課題への対処と社会資源への活用	健康課題の改善に向けた対処行動とそれをさせる社会資源について理解する。	4. 健康課題への対処と社会資源の活用		
6	事例のアセスメント	学習援助型の理論を基に対象の行動変容を促す支援について考えることができる。健康課題の改善に向けた対処行動とそれをさせる支援の実際について理解する。	5. 事例のアセスメント (事例のアセスメントと健康課題の改善に向けた対処行動への支援の実際)		筆記試験 100%
7					

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
 医)系看「成人看護学総論」「老年看護学」「小児看護学概論・総論」 南)成人看護学概論

【参考図書・文献】
 メ)「ヘルスプロモーション」「行動科学からみた健康と病氣」

【科目】	【時期】	【担当講師】	実務経験
	2年次 後期 【単位 時間数】 1単位 30時間	谷口 栄 ベルランド総合病院 看護部 川東 洋子 ベルランド総合病院 看護部 山岡 森子 ベルランド総合病院 救急看護認定看護師 島田 美香 ベルランド総合病院 看護部 岩井 拓 府中病院 看護部 井上 彩 府中病院 看護部	24年 21年 27年 24年 17年 24年

【概要】
重篤で、緊急性の高い疾患や外傷や、生体侵襲の大きい治療によって、生命の危機に陥った対象は、集中的なケアを受けながら、回復する。その生体侵襲や回復過程を理解し、対象を支えるための看護について学ぶ。

- 【到達目標】
1. 強い生体侵襲を受ける対象を全人的に理解する（知識・技能）（思考・判断・表現）
 2. 生体侵襲が対象に及ぼす影響を理解する。（知識・技能）（思考・判断・表現）
 3. 生体侵襲からの回復過程にある対象の病氣回復行動を支える理論を活用し理解できる。（知識・技能）（思考・判断・表現）
 4. 生体侵襲からの回復を支援する看護に関心をもち、自ら主体的に探究する姿勢を養う。（学びに向かう力）

【授業計画・内容】					評価割合	評価方法		
回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法				
1	谷口	1. 生体侵襲とは 2. 生体侵襲を受けた対象の理解 3. 手術・麻酔による生体侵襲 4. 術後合併症とその予防	教授内容(教育要綱) 1. 生体侵襲とは 2. 生体侵襲と回復過程 3. ムーアの分類 4. 治療と生体侵襲 5. 手術・麻酔による生体侵襲 6. 術後合併症とその予防 1) 術後出血 2) 循環器合併症 3) 下肢静脈血栓、肺塞栓症 4) 術後疼痛 5) 呼吸器合併症 6) 術後イレウス 7) 感染 8) 縫合不全	30%	筆記試験			
2		岩井・井上	5. 生体侵襲と回復過程を支える看護の実践(術前)			1. 術前とは 2. 手術前における人の特徴 3. 術前検査と術前処置 4. 手術に臨む人の看護 1) 手術法の理解を促す看護 2) 術後合併症のリスクアセスメントと援助		
3			川東			2) 回復過程を支える看護の実践①-術中	1. 手術室の環境と手術中の人に対する影響(手術時手消菌を含む) 2. 手術中の看護の実践 1) 開腹・開胸・開頭・鏡視下の手術方法による影響と援助 2) 手術体位による影響と援助 3) 麻酔による影響と援助 4) 安全管理(セーフティマネジメント)(患者確認・ガーゼ逸脱の防止) 3. 日帰り手術を受ける患者の看護	
4						岩井・井上	3) 回復過程を支える看護の実践②-術直後 4) 回復過程を支える看護の実践③	1. 術直後における人の特徴 2. 創傷治癒の過程 3. 術後の創傷およびドレーンの管理 4. 術後疼痛管理 5. 術後の回復促進に必要な看護の実践 ※理解を深めるために事例を用いて授業を行うが、この単元では基本となる術後の看護の実践について学習するものとし、術後看護の事例展開は「病氣対応行動を支える看護の実践」で行う。
5							島田	術後から社会復帰まで(薬物療法と看護、放射線療法と看護)
6	山岡			6. 救命・救急処置を必要とする人の特徴と看護 1) 救急患者に対する初期対応の実際と倫理 2) 緊急な治療が必要な人の特徴 3) 主な健康問題に対する看護	1. 救急医療の現状 2. 救急患者に対する初期対応の実際と倫理 1) 治療の緊急性と優先度、治療選択・意思決定への支援 2) 代理意思決定支援 3) 予期しない終末期 4) プライバシーの保護 3. 救急場面における看護の実際 1) 緊急度と重症度のアセスメント (1) 意識レベル、神経学的所見 (2) バイタルサイン 4. 緊急な治療が必要な人の特徴 5. 主な健康問題と看護の特徴 1) 心臓停止状態への処置 2) ショック状態への処置 3) 外傷・止血法 4) 急性中毒 5) 急性腸症 6. 主要な病態に対する看護 1) 新興感染症 2) 熱傷 3) 敗血症			
7		11		12	13			14

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
医)系書「臨床外科看護総論」「救急看護学」「クリティカルケア看護学」

【参考図書・文献】
南)成人看護学概論 医)「老年看護学」「小児看護学概論・総論」

【科目】	【時期】	2年次 後期	【担当講師】	野口 富美子	ベルランド総合病院 看護部	27年
	【単位 時間数】	1単位 30時間		深水 美子	ベルランド総合病院 看護部	24年
【概要】	病気が対処行動を支える看護の実践2					
	あらゆるライフサイクルにある対象が、様々な原因で引き起こされる疾患の診断・治療期、安定期に及ぶ一連の経過をたどり、社会復帰に至る過程を学ぶ。医療を受ける対象の病気が対処行動を支え、復讐の回復へ向かう支援及び社会資源の有効活用・多職種連携・看護とその役割を理解する。					
	【到達目標】					

1. 各ライフサイクルにある対象の変わりゆく健康状態について理解できる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
2. 病気が対処行動を支えるための理論を用いて、病とともに生活する対象の理解を深めることができる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
3. 変化する健康状態にある対象が、主体的に病気が対処行動ができるための看護について考えることができる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
4. 病気が対処行動に必要な対象を支えるための多職種連携と看護の役割について考えることができる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
5. 病気が対処行動に必要な対象を支える看護についての探求心を持つことができる。(学びに向かう力)

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	井上	1. “食べる(消化・吸収・代謝)”を支える看護 1) “食べる”に際しての病と共通した人の特徴と看護の実践 2) “食べる-消化・吸収”に関連した病と共通して生きる人を支える看護の実践 ①胃がんと共に生きる人を支える看護	井上 20% 深水 20% 野口 10% 山根 20% 藤井 30%	筆記試験 100%
2		1. “食べる(消化・吸収・代謝)”を支える看護 1) “食べる”に際しての病と共通した人の特徴と看護の実践 2) “食べる-消化・吸収”に関連した病と共通して生きる人を支える看護の実践 ①胃がんと共に生きる人を支える看護		
3		1. “食べる(消化・吸収・代謝)”を支える看護 1) “食べる”に際しての病と共通した人の特徴と看護の実践 2) “食べる-消化・吸収”に関連した病と共通して生きる人を支える看護の実践 ①胃がんと共に生きる人を支える看護		
4		1. “食べる(消化・吸収・代謝)”を支える看護 1) “食べる”に際しての病と共通した人の特徴と看護の実践 2) “食べる-消化・吸収”に関連した病と共通して生きる人を支える看護の実践 ①大腸がんと共に生きる人を支える看護(腸造瘻の管理を含む)		
5		1. “食べる(消化・吸収・代謝)”を支える看護 1) “食べる”に際しての病と共通した人の特徴と看護の実践 2) “食べる-消化・吸収”に関連した病と共通して生きる人を支える看護の実践 ①慢性膵炎と共に生きる人を支える看護		
6		1. “食べる(消化・吸収・代謝)”を支える看護 1) “食べる”に際しての病と共通した人の特徴と看護の実践 2) “食べる-消化・吸収”に関連した病と共通して生きる人を支える看護の実践 ①肝臓病と共に生きる人を支える看護		
7		1. “食べる(消化・吸収・代謝)”を支える看護 1) “食べる”に際しての病と共通した人の特徴と看護の実践 2) “食べる-消化・吸収”に関連した病と共通して生きる人を支える看護の実践 ①肝臓病と共に生きる人を支える看護		
8		1. “食べる(消化・吸収・代謝)”を支える看護 1) “食べる”に際しての病と共通した人の特徴と看護の実践 2) “食べる-消化・吸収”に関連した病と共通して生きる人を支える看護の実践 ①胆嚢炎と共に生きる人を支える看護		
9		1. “食べる(消化・吸収・代謝)”を支える看護 1) “食べる”に際しての病と共通した人の特徴と看護の実践 2) “食べる-消化・吸収”に関連した病と共通して生きる人を支える看護の実践 ①胆嚢炎と共に生きる人を支える看護		
10		1. “食べる(消化・吸収・代謝)”を支える看護 1) “食べる”に際しての病と共通した人の特徴と看護の実践 2) “食べる-消化・吸収”に関連した病と共通して生きる人を支える看護の実践 ①胆嚢炎と共に生きる人を支える看護		
11		1. “食べる(消化・吸収・代謝)”を支える看護 1) “食べる”に際しての病と共通した人の特徴と看護の実践 2) “食べる-消化・吸収”に関連した病と共通して生きる人を支える看護の実践 ①胆嚢炎と共に生きる人を支える看護		
12		1. “排泄する”を支える看護 1) “排泄する”に際しての病と共通した人の特徴と看護の実践 2) “排泄する”に関連した病と共通して生きる人を支える看護の実践 ①慢性腎不全と共に生きる人を支える看護		
13		1. “排泄する”を支える看護 1) “排泄する”に際しての病と共通した人の特徴と看護の実践 2) “排泄する”に関連した病と共通して生きる人を支える看護の実践 ①慢性腎不全と共に生きる人を支える看護		
14		1. “排泄する”を支える看護 1) “排泄する”に際しての病と共通した人の特徴と看護の実践 2) “排泄する”に関連した病と共通して生きる人を支える看護の実践 ①膀胱がん(尿路変更を含む)と共に生きる人を支える看護		

※兼任試験 1回

【講義に向けての読書・特記事項】

【テキスト】
医 参考「消化器」「骨・口腔」「臨床外科看護各論」「腎・泌尿器」
【参考図書・文献】
南 成人看護学概論 経「老年看護学」「小児看護学概論・総論」

【科目】	【時期】	【担当講師】	実務経験
病氣対処行動を支える看護の実際③	2年次 後期	谷口 栄	24年
	【単位 時間数】 1単位 30時間	井上 幸士	18年
		ベルランド総合病院 看護部	
		ベルランド総合病院 慢性呼吸器疾患看護認定看護師	

【概要】
 おらゆるライフサイクルにある対象が、様々な原因で引き起こされる疾患の診断・治療期、安定期に及び一連の復過程をたどり、社会復帰に至る過程を学ぶ。医療を受ける対象の病氣対処行動を支え、健康の回復へ向かう支援及び社会資源の有効活用・多職種連携・看護とその役割を理解する。

- 【到達目標】
- 各ライフサイクルにある対象の変わりゆく健康状態について理解できる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
 - 病氣対処行動を支えるための理論を用いて、病とともに生活する対象の理解を深めることができる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
 - 変化する健康状態にある対象が、主体的に病氣対処行動ができるための看護について考えることができる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
 - 病氣対処行動が必要な対象を支えるための多職種連携と看護の役割について考えることができる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
 - 病氣対処行動が必要な対象を支える看護についての探求心を持つことができる。(学びに向かう力)

【授業計画・内容】					評価割合	評価方法
回数	担当講師	主な内容				
1	横谷	1. 「生きる一循環機能」に関連した病とともに生きる人の特徴と看護	1. 対象の特徴	1. 対象の特徴 1) 身体的な特徴 生命の危機状態に陥る危険性 苦痛を伴う症状の持続 基本的・生理的ニーズの障害 合併症の危険性 2) 心理・社会的な特徴 疾病や死に対する恐怖・不安 社会的役割の修正 家族の問題 2. 看護の実際 1) 身体的な問題への援助 2) 心理・社会的な問題への援助	横谷 50%	筆記試験 100%
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8	井上	2. 「息をする」に関連する病と共に生きる人を守る看護	1. 対象の特徴	1. 対象の特徴 1) 身体的な特徴 全身への影響 疾患の経過と特徴 主な症状と日常生活への影響 初期症状 2) 心理・社会的な特徴 呼吸器症状と病氣に対する受け止め方 発病・長期療養に伴う危機 社会復帰という課題 2. 看護の実際 1) 身体的な問題への援助 2) 心理的・社会的な問題への援助 3) 残存機能の維持と在宅療養への支援	横谷 50% 井上 50%	筆記試験 100%
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
 医) 系書「循環器」「呼吸器」「臨床外科看護各論」

【参考図書・文献】
 南) 成人看護学概論 医) 「老年看護学」「小児看護学概論・総論」

【科目】	【時期】	【担当講師】	実務経験 (後期更新)
こころを支える看護の基 本	2年次 後期 【単位 時間数】 1単位 30時間	眞島 久美子 非常勤講師	

【概要】
人間のこころの健康について関心をもち、精神保健医療福祉について学び、ストレングスモデルに基づきリカバリーについて考える。

- 【到達目標】
1. 人間のこころの健康について関心をもつ。(知識・技能)(学びに向かう力)
 2. 精神医療の歴史的変遷を学び、人権擁護について考える。(知識・技能)(思考・判断・表現)
 3. システムとしての家族を知り、家族療法について学ぶ。(知識・技能)
 4. 精神看護領域に必要な法制度について学ぶ。(知識・技能)
 5. 地域生活を支えるための法制度の現状について学ぶ。(知識・技能)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法	
1	眞島	1. 精神看護の概念 1) 精神の健康の基準 2) 精神科医療の現状	100%	筆記試験 100%	
2		1) 精神の健康の概念 国際生活機能分類 (ICF) ・ 精神の健康の基準 2) 障害のある人に関わる統計 受療率・平均在院日数・障害者数の推移 3) 精神看護の課題 平均在院日数の長さ 精神保健医療福祉の改革・ビジョン こころのバリアフリー宣言			
3		2. 人間のこころのはたらき 1) 心の理論 2) ライフサイクルとアイデンティティ			1) 心の機能と発達 自我の構造・自我の防衛機制 2) ライフサイクル論 アイデンティティ 3) 心の理論 人の心を読む能力 サリーとアン 4) 危機とストレス 危機の定義・危機の予防概念 ストレスと対処 (コーピング)
4		3. 関係のなかの人間			1) 全体としての家族 家族の多様性・家族と精神の健康 システムとしての家族 2) 人間と集団 集団のなかの自己 グループプロセス
5		4. 回復のビジョン 1) リカバリーの道程 2) ストレングスモデル 3) リカバリーを支える力			1) リカバリーの定義 2) リカバリーの段階 希望・エンパワメント・自己責任 生活のなかの有意義な役割 3) ストレングスモデル 4) リカバリーを支える力 レジリエンス
6					
7		5. 社会のなかの精神障害 1) 精神障害に関わる歴史 2) 精神看護に必要な法律と制度			1) 精神障害に関わる歴史 ① 精神障害と治療の歴史 ② 日本における精神医療の流れ ③ 共同作業所運動の実際
8					
9					
10					2) 精神看護に必要な法律と制度 ① 精神科看護の基本となる法律 精神保健福祉法・障害者総合支援法 ② 権利擁護に関する法律と制度 障害者権利条約 障害者基本法 障害者差別解消法 ③ 医療・生活を支えるための法律と制度 医療法 障害年金制度 障害者雇用促進法 ④ 法律・制度における課題
11					
12					
13					
14		6. 職場における精神保健と精神看護			1) 災害時地域精神保健医療活動 2) 災害時の精神保健初期対応 3) 災害時の精神障害者への治療 継続への援助 PTSD・フラッシュバック
15		7. 災害と精神看護			1) 精神の健康とマネジメント 心身相関と健康 身体疾患があるものの精神の健康 精神疾患があるものの体の健康 2) リエゾナーズの役割 3) 保健医療福祉に従事する者の精神の健康 看護師の不安と防衛 感情労働としての看護 看護師の感情ワーク 看護における共感の光と影 レジリエンスを高める

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】
医) 系書「精神看護の基礎」 医) 系書「精神看護の展開」
国民衛生の動向・国民の福祉と介護の動向 厚生労働統計協会
【参考図書・文献】

【科目】 最善の生を支える看護の基本	【時期】 2年後期 【単位 時間数】 1単位 15時間	【担当講師】 水方 智子 日本看護学校協議会 会長	実務経験 6年
-----------------------	--------------------------------------	------------------------------	------------

【概要】

少子高齢化の進行により高齢多死社会が到来している日本の現状で、あらゆるライフサイクルにある対象が人生の最期に向かう時に、その人の人生に焦点を当てた、最善の生を生きることを支える看護の基本を学ぶ。

【到達目標】

1. 日本の現状と課題について理解する（知識・技能）
2. エンド・オブ・ライフケアの特徴について理解する（知識・技能）
3. 最善の生を支える看護実践の構成要素を理解する（知識・技能）
4. あらゆるライフサイクルにある人の最期の時について考える（知識・技能）（思考・判断・表現）
5. 死生観を持つ意味を理解し、自己の死生観を深める。（思考・判断・表現）（学びに向かう力）
6. 最善の生を支える看護に関心を持ち、自ら主体的に探究する姿勢を養う（学びに向かう力）

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	水方	日本における人生の最期の時を迎える対象の現状と課題	100%	筆記試験 100%
2		人生最期に向かう対象の理解		
3		3. 最善の生を支える看護の実際 4. 最善の生を支える看護における倫理的課題 5. 最善の生を共に歩む家族の看護の実際		
4		6. 死生観—世界の文化と死生観 死生観を養う意味		
5		1. 人生最期の時とは ～最善の生を生きるとは～ 2. 終末期とエンド・オブ・ライフケア 3. 日本の社会状況の変化と人生の最期を迎える人への影響 4. 人生最期の時の医療・ケア ・終末期医療の変遷 ・終末期医療と緩和ケア ・ベストサポーターケア ・ターミナルケア ・ホスピスケア		
6		1. 人生最期の時に向かう対象の特徴 1) 身体的特徴 2) 心理的特徴 3) 社会的特徴 4) スピリチュアリティの特徴 5) トータルペインとは 2. ライフサイクルにおける最善の生 1) こどもの最善の生 2) おとなの最善の生 3) 高齢者の最善の生		
7		1. 最善の生を支える看護とは 1) 人生最期の時に向かう人を支える看護におけるコミュニケーション；NURSE SPIKES他 2) 全人的ケア ・トータルペインと緩和ケア ・日常生活の支援 ・精神面の支援 ・スピリチュアリティを支える ・臨死期のケア 3) 家族の看護 2. 生活を支える社会資源と職種連携 3. 最善の生を支える看護における倫理的課題 1) 生命倫理と看護倫理 2) 人生の最期にある人々を支える場面で直面する倫理的課題 治療の選択・延命治療・尊厳死・安楽死・鎮静 3) 意思決定支援：IC ACP 人生の最終段階における医療の決定のプロセスに関するガイドライン 4) 倫理的課題への対応		
7 ※	1. 医療者のケア 2. 死生観とは 3. 世界の文化と死生観			

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】

医)系看「緩和ケア」 医)系看「老年看護学」 医)系看「小児看護学概論・小児臨床看護総論」

医)系看「成人看護学総論」

【参考図書・文献】

【科目】 情報リテラシー	【時期】 1年次 前期 【単位 時間数】 1単位 15時間	【担当講師】 池上 正樹 法人本部 経営企画部 部長	実務経験 (無し)
-----------------	--	-------------------------------	--------------

【概要】

Society5.0の情報社会を生きるために、様々な情報を自己の目的に応じて、必要なICTツールを活用し、受け手の情報を踏まえて、発信伝達するなど適切に情報を取り扱う能力を育成する。また情報の性質をよく知った上で、必要な情報を探し出し、理解し、活用できる能力とともに、情報モラルや情報セキュリティに対する意識を養う

【到達目標】

1. 情報倫理を身につけ、インターネットや情報サービスを正しく活用することができる(知識・技能)(思考・判断・表現)
2. 情報サービス上でのコミュニケーションを円滑に行うための知識を身につけ実践することができる(知識・技能)(思考・判断・表現)
3. 情報セキュリティ、情報モラル・ルールとマナー、ソーシャルメディア、著作権・肖像権侵害、ネット犯罪の観点からインターネット上での問題に対処する方法を考えることができる(知識・技能)(思考・判断・表現)
4. 情報の性質をよく知った上で、必要な情報を探し出し、理解し、活用できる能力を身につける(知識・技能)(思考・判断・表現)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	池上	情報と情報社会 教授内容(教育要綱) 1) 情報の定義と特徴 ・情報とは ・情報の特性 ・情報の認知と意思決定 ・情報伝達とコミュニケーション 2) 社会と情報 ・情報社会の成立と発展 ・情報社会で求められること	池上 100%	・終講試験 ・課題提出物 ・授業や演習への取り組み状況など
2		情報と倫理① 1) 情報倫理と医療 2) 患者の権利と情報 ・患者の権利と自己決定への支援 ・診療情報の開示 3) 個人情報の保護 ・医療看護における個人情報 ・情報の利用の仕方		
3		情報と倫理② 4) コンピュータリテラシーとセキュリティ ・コンピュータに関する基礎知識 ・インターネットに関する基礎知識と注意点		
4		保健医療における情報① 1) 保健医療と情報 ・医療における情報 ・エビデンス情報に基づいた保健医療 ・ヘルスプロモーションと情報 ヘルスリテラシー：双方向のコミュニケーション 2) 看護と情報 ・看護における情報 ・情報社会と看護		
5		保健医療における情報② 3) 医療における情報システム ・医療における情報の記録 ・病院情報システム ・地域医療福祉のネットワークと情報システム (講義・演習)		
6		情報処理(文献など既存の情報の収集と活用) 1) 文献検索の方法と実際 2) 情報保護・情報リテラシー 3) 剽窃について (講義・演習)		
7		社会の一員として安全に情報を取り扱うために① 1) PBL テーマ 情報社会の有効性と問題点を認識し、社会の一員として安全に情報を取り扱うために必要な事柄について グループ学習など		

*筆記試験 1H *

【講義に向けての課題・特記事項】

PCの基本的操作は修得したうえで、授業に臨んでください。

【テキスト】

医)系看「看護情報学」

【参考図書・文献】

金)「看護学生のためのよくわかる大学での学び」

【科目】 キャリア支援1 (ライフスキル)	【時期】 1年次 前期 【単位 時間数】 1単位 20時間	【担当講師】 岸田 由紀 専任教員	実務経験 8年
-----------------------------	--	----------------------	------------

【概要】
主体的な意志ある学習をするために、読む、書く、調べるなど基本的なスタディスキルを習得する。また、看護学生として日常の様々な課題に対し、建設的かつ効果的に対処するために必要なライフスキルを身につける。さらに、看護を実践する者として基盤となる概念、思考方法を学び、看護学生としての自覚をもち、今後の展望を描く。

- 【到達目標】
1. 看護学生として日常の様々な課題に対し、建設的かつ効果的に対処するために必要なライフスキルを身につける(学びに向かう力)(思考・判断・表現)
 2. 看護学生に必要な基本的なスタディスキルを習得できる。(知識・技能)(学びに向かう力)
 3. 看護を実践する者として基盤となる概念、思考方法について理解できる。(知識・技能)(学びに向かう力)(思考・判断・表現)
 4. 看護学生として学ぶ姿勢・態度を考えることができる。(思考・判断・表現)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法	
1	岸田	1. ライフスキル ライフスキルを構成する 10の能力要素	100%	①課題提出物 ②授業への参加 状況や態度など 総合的に評価する	
2		2. 成人学習者と主体的な 学習			
3		3. プロジェクト学習			
4		4. スタディスキル (文章の読み方、要訳、レ ポートの書き方、プレゼ ンテーション)			
5		5. リフレクション			
6					
7					
8					
9		10			1) クリティカルシンキング 2) リフレクションの基本 3) リフレクションの目的と意義 4) リフレクションのスキル 5) 看護リフレクション発表 (発表会の運営) (講義・演習)
10					

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】
社会生活及び学習の基盤となるスキルです。主体的に学習に臨みましょう

【テキスト】
学)「ナーシング・キャンパス」 金芳堂)「看護学生のためのよくわかる大学での学び」

【参考図書・文献】
照林社)「看護学生のためのレポート書き方教室」 日本看護協会出版会)看護学生のための「読む力」「書く力」レッスンブック

【科目】 キャリア支援2 (サービラーニング)	【時期】 1年次 前期 【単位 時間数】 1単位20時間	【担当講師】 岸田 由紀 専任教員	実務経験 8年
-------------------------------	---------------------------------------	----------------------	------------

【概要】

社会人として、地域住民として、地域と結びつき、さまざまな職場や地域住民と協働する経験を通して、地域のニーズや社会のニーズを知り、「自分たちには何ができるのか」を考え、地域社会のニーズに沿った無償サービス（ボランティア）に参加し、これらの経験学習を通して、市民としての責任感を自覚し、自己のあるべき姿について考える。

【到達目標】

1. サービスラーニングの考え方や教育的な意義を理解することができる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
2. サービスラーニングを始めるに際しての心得を理解することができる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
3. サービスラーニングを通して、次に掲げる目標が達成できる。
 - 1) 地域社会に関心を持ち、地域の実情や社会のニーズを知ることができる。(知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)
 - 2) ボランティア活動に継続的に参加するために、必要な活動を自ら計画することができる。(思考・判断・表現) (学びに向かう力)
 - 3) 他者と意見や立場が異なることを理解し、協働することの必要性が理解できる。(知識・技能) (思考・判断・表現)
 - 4) 地域に貢献できた活動体験から、自己への自信を高め、達成感を得ることができる。(学びに向かう力)
 - 5) 社会の規律を守ることの大切さや、社会が看護学生に寄せている期待を自覚し、自分のあるべき姿や行動について考えることができる。(思考・判断・表現) (学びに向かう力)
 - 6) 自己の活動を客観的に振り返り、どのような社会的影響を与えることができたのかを考え、そこから得た課題を述べることができる。(思考・判断・表現) (学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	岸田	1. 体験学習とは(デューイの体験的教育理論) 2. 社会人基礎力とは 3. サービスラーニングとは(歴史と変遷、教育的な意義、ボランティアとの違い)	100%	学びの成果物 100% (ルーブリックあり)
2		4. ボランティア体験に向けての活動計画立案		
3		5. ボランティア体験報告		
4		6. サービスラーニング活動計画立案と発表①		
5		7. サービスラーニング活動①		
6		8. サービスラーニング活動計画立案と発表②		
7		9. サービスラーニング活動②		
8		10. 発表準備・制作		
9		9. 自己の体験の振り返り		
10		10. 経験の共有とアクションプラン		

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】

【参考図書・文献】

ミネルヴァ書房「ボランティアまるごとガイド ―参加のしかた・活動のすべて―」

【科目】 キャリア支援4 (後輩支援)	【時期】 2年次 前・後期 【単位 時間数】 1単位 20時間	【担当講師】 田村 留美子 専任教員	実務経験 20年
---------------------------	--	-----------------------	-------------

【概要】
後輩への学習支援を通して、自己の知識と技術の確認と深化を図る。また、看護学生として継続学習の必要性和意義を理解する。

- 【到達目標】
1. 他者に対し、積極的にかかわることで多様な価値観を理解し、人間関係を築く力を身につける。(学びに向かう力)
 2. 後輩支援を通して、対象に合った日常生活援助の計画・実施に必要な知識・技術が再確認できる
(知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)
 3. 後輩支援を通して、看護学生として継続学習の必要性和意義が理解できる。
(知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法
1	後輩支援と自己成長	1. 後輩支援とは 教授内容(教育要綱) 1. 協同学習とは 2. 高等教育におけるピアラーニング 3. 後輩支援と自己成長 4. 後輩支援のための必要なもの	100%	レポート 課題提出
2	後輩支援の準備 画立案と計画	2. 学習支援(看護基礎教育、高等教育における学習方略) (ア) 学校生活オリエンテーション (イ) 学習方法 授業の受け方、ノートの取り方など 1. 新入生に必要な支援内容の検討 2. 役割分担 3. 後輩支援計画の作成 4. 後輩支援に向けての準備		
3	後輩支援の実施①	3. 実習室使用に関するオリエンテーション 1. 各グループに分かれて、後輩支援を実施する 2. 後輩との関わりをリフレクションし自己の課題を明確にする		
4				
5	田村	4. 後輩の看護技術修得への支援 看護技術演習での後輩支援を行い、1年生の内容の確認を行う 1. 後輩支援計画書作成 2. 事例をもとに対象の状態に合わせた具体的な計画立案について後輩へ助言を行う		
6				
7				
8		3. 技術確認 患者役となり、後輩が実践した日常生活援助技術についてリフレクションを行う		
9				
10	まとめ	後輩支援と自己成長 1. 後輩支援を振り返り、自己の学びや成長を振り返る 2. 上記内容についてグループで共有を行う 3. 今後の自己課題を明確にする		

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】

講師準備

【参考図書・文献】

(医)「基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ」、メ)「はじめてのフィジカルアセスメント」

【科目】 臨床看護の実践1 (技術習得確認)	【時期】 1年次 後期 【単位 時間数】 1単位 20時間	【担当講師】 大西 恵梨 専任教員	実務経験 7年
------------------------------	--	----------------------	------------

【概要】

看護の基本となる原理・原則を理解し、安全に技術が提供できる力を習得する。
生活と暮らしの看護技術の総括として、根拠に基づいた看護技術を実践する力の到達を目指し、1年後期に実施する。

【到達目標】

1. 対象のニーズから必要であると考えられる援助を見出すことができる (知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)
2. 対象の状態に合わせた具体的な援助方法を考える事ができる (知識・技能) (思考・判断・表現)
3. 対象に合った日常生活援助を実施することができる (知識・技能) (思考・判断・表現) (学びに向かう力)

【授業計画・内容】

回数	担当講師	主な内容	評価割合	評価方法		
1	大西	1. オリエンテーション 2. 課題演習 事例の理解 (2年生からの支援について説明・ベアリング)	100%	技術確認100% (ルーブリックあり)		
2		2. 課題演習 (ア) 事例の理解 (イ) 援助計画立案 2年生支援のもと具体的な計画立案を行う (ウ) 日常生活援助技術演習			授業内容 (教育要綱) 事例をもとに対象に必要な援助を見出す 具体的な援助方法を考えることができる ・ 援助計画立案 ・ 演習	
3						
4						対象の状態に合わせた具体的計画立案について深める (2年生とベアリング)
5						
6						
7		3. 技術確認テスト 2年生支援 (患者役) (技術確認項目) ・ 全身清拭・更衣 ・ 車いす移乗移送・排泄援助 ・ 洗髪 ・ 足浴 技術確認ルーブリックに基づいて評価			技術確認に向けての準備 日常生活技術演習	
8						
9						
10		まとめ ・ 振り返りをもとに計画を 再考する (計画書提出)				

※筆記試験 1H

【講義に向けての課題・特記事項】

【テキスト】

医)系看「基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ」 日看協)「看護形態機能学」 医)「基礎・臨床看護技術」
日看協)日常生活行動からみるヘルスアセスメント
【参考図書・文献】